The page features a decorative design with three overlapping blue circles of varying sizes and shades, arranged in a descending diagonal line from the top right towards the bottom right. Thin blue lines extend from the top left and bottom right corners, framing the central text area.

プロセスワーク臨床基礎プログラム  
コースハンドブック  
2011 年度—4月期版

日本プロセスワークセンター

Japan Process Work Center

E-mail: [info@jpwc.jp](mailto:info@jpwc.jp)

Website: <http://www.jpwc.jp>

Tel & Fax: 03-3485-4208

〒156-0041 東京都世田谷区大原 1-3-11

# 日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム コースハンドブック

## 目次

はじめに.....	1
I. プロセスワークについて.....	4
プロセスワーク／プロセス指向心理学とは.....	4
国際的コミュニティ.....	4
*参考：世界のトレーニングプログラム.....	5
II. 日本プロセスワークセンターについて.....	7
沿革.....	7
日本プロセスワークセンターの組織.....	7
図1：日本プロセスワークセンター組織図.....	10
III. 日本プロセスワークセンタープロセスワーク公式トレーニングプログラム.....	11
3つのトレーニングプログラム.....	11
基礎プログラム（初級）.....	11
臨床基礎プログラム（中級）.....	12
ディプロマプログラム（上級）.....	12
図2：日本プロセスワークセンタートレーニングプログラムの流れ.....	13
IV. 「プロセスワーク臨床基礎プログラム」.....	14
1 「プロセスワーク臨床基礎プログラム」の特徴.....	14
2 「臨床基礎プログラム」が対象とする方.....	15
3 トレーニングの実施場所と主な連絡手段.....	16
3-1 トレーニングの実施場所.....	16
3-2 主な連絡手段.....	17
4 入学手続き.....	17
4-1 入学の時期.....	18
4-2 申込手続き.....	18
4-2-1 認定プロセスワーカーとの入学前個人セッション.....	18
4-2-2 推薦状の送付.....	18
4-2-3 納入金の振込.....	19
4-2-4 送付書類.....	19
4-2-5. 入学の受理と「学生記録」.....	20
5 新入生歓迎ミーティングと学生ミーティング.....	20

5-1. 新入生歓迎ミーティング.....	20
5-2. 学生ミーティング.....	21
6 学習課程と修了に必要な単位.....	21
6-1 「臨床基礎プログラム」の修了要件と学習の流れ.....	21
6-2 入学前の学習.....	22
6-3 アドバイザーとメインセラピストの役割と選定.....	23
6-3-1 アドバイザー.....	23
6-3-2 メインセラピスト.....	24
6-4 学習計画書.....	25
6-5 セミナー.....	25
6-5-1 セミナーの単位.....	26
6-5-2 セミナーの履修方法.....	26
表1. 「臨床基礎プログラム」必修&自由選択セミナー.....	27
6-5-3 セミナーの内容：学習分野とレベル.....	28
● セミナーのレベル概要.....	29
● 「臨床基礎プログラム」のセミナー履修方法：必修と自由選択.....	29
表2. 「臨床基礎プログラム」の各学習分野のレベル別セミナー履修方法と 単位数一覧.....	29
● ディプロマプログラム進学を視野に入れている場合.....	30
● 参加に必要な学習レベルについて.....	30
● さらに学びを深めたい場合.....	31
● 特定分野のセミナーに数多く参加した場合 (「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」の取得) .....	31
6-6 個人ワーク.....	31
6-7 スーパービジョン.....	32
6-7-1 ライブ・スーパービジョン.....	32
6-7-2 事例検討セミナー (グループでのケース・スーパービジョン) .....	33
6-8 学生同士による研究会 (ピア・スタディ・グループ/トライアド) .....	33
6-9 自主学習.....	34
6-10 中間考査.....	34
6-11 卒業小論文.....	35
6-12 プログラム修了判定.....	35
7 修了によって取得できる資格.....	35
7-1 「プロセスワーク初級セラピスト」資格.....	35
7-2 「プロセスワーク初級プラクティショナー」資格.....	35
7-3 「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」資格.....	36

8	プログラム間の移籍・進学.....	36
8-1	「ディプロマプログラム」への進学.....	36
8-2	「基礎プログラム」から「臨床基礎プログラム」への移籍 「臨床基礎プログラム」から「基礎プログラム」への移籍.....	37
8-3	「基礎プログラム」（および旧資格プログラム）修了後の編入.....	38
9	プログラム履修費用.....	39
9-1	年度開始時の一括納入費用.....	39
9-2	個別に支払う費用.....	40
10	スカラシップ.....	41
11	学生登録料.....	41
12	休学.....	42
13	復学.....	42
14	退学.....	42
15	学生担当.....	43
16	倫理委員会.....	43
17	問合せ及び連絡先.....	43
18	振込先.....	44
巻末資料Ⅰ：2010年度日本プロセスワークセンター主催		
	レベル別トレーニングセミナーのご案内.....	45
巻末資料Ⅱ：日本プロセスワークセンタースタッフ一覧.....		
		56
巻末資料Ⅲ：日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム用紙集.....		
		57

## はじめに

日本プロセスワークセンター（Japan Process Work Center: JPWC）の「プロセスワーク臨床基礎プログラム」にご関心をお寄せいただき、ありがとうございます。

日本プロセスワークセンターは、プロセスワークの普及とそれを通じた社会貢献を目的とする任意団体です。国際プロセス指向心理学協会（International Process Oriented Psychology Association: IAPOP）の一員として、国際基準にかなった公式トレーニングプログラムの提供を中心に活動しています。2011年4月現在、下記の3つのトレーニングプログラムを提供しています。

- 1) プロセスワーク基礎プログラム（旧「資格プログラム」を含む。以下「基礎プログラム」）
- 2) プロセスワーク臨床基礎プログラム（以下「臨床基礎プログラム」）
- 3) プロセスワークディプロマプログラム（以下「ディプロマプログラム」）

3つのプログラムは、「基礎プログラム」が初級、「臨床基礎プログラム」が中級、「ディプロマプログラム」が上級と位置づけられ、プロセスワークの基礎から応用まで一貫して学ぶことができます。同時に、さまざまな興味関心やニーズ、学習スタイルに応じて学べるよう、それぞれのプログラムに特色があります。プログラム全体の構成や各プログラムの詳細については、本ハンドブックの「Ⅲ.日本プロセスワークセンタープロセスワーク公式トレーニングプログラム」（11ページ）をご覧ください。

このハンドブックでご案内する「臨床基礎プログラム」は、プロセスワークの基礎をしっかりと学んだ上で、人とかかわる専門領域に生かす実践力をつけたいという方を対象としたコースです。プロセスワークの広範な応用領域のそれぞれの基礎を学び、さらにご自身の興味関心にしたがって各領域の学びを深めることができます。

プロセスワークは心理療法として発展し、近年はグループファシリテーションや葛藤解決技法としても注目されています。その考え方や見立ての方法は、日々の生活や仕事のちょっとした場面にも大いに役立ちますが、個人や集団のダイナミクスを見抜き、起こるべき変容をうながす効果的なアプローチとして、心理臨床をはじめ医療、福祉、教育、司法、組織やコミュニティ開発など、さまざまな現場で実地に役立つ分析方法と実践的スキルを豊富に持っています。「臨床基礎プログラム」では、プロセスワークの多岐にわたる応用領域の基礎を一通り学んだ上で、専門職の高いニーズにもこたえる実践力を身につけ、またそれを使いこなせるだけの自己成長を目指すことができます。

プログラムは単位制で、参加セミナー時間数や個人セッション数などで構成される一定の単位を取得すれば修了できます。修了までにかかる時間は人それぞれですが、基本的には3、4年で終わられるようにデザインされています。「臨床基礎プログラム」を終わられる頃には、プロセスワークの基本的な考え方を身につけ、ご自分の生活や仕事の現場に生かせるようになっているはずです。修了時には、「プロセスワーク初級セラピスト」（プロセスワークを心理臨床、医療、福祉、教育、司法、経営などの専門分野、臨床現場で活かすための基礎的なトレーニングを行ったことを日本プロセスワークセンターが証明する資格）が授与されます。

日本プロセスワークセンターでは、「臨床基礎プログラム」修了を「ディプロマプログラム」への入学必要条件としています。「ディプロマプログラム」はプロセスワークの専門家となることをめざす最上級のトレーニングプログラムですが、たいへん長期の学習過程を必要とするため、プログラムでプロセスワークを学ぶとはどういうことかをしっかりと納得されてからお入り頂きたいと日本プロセスワークセンターでは考えています。「ディプロマプログラム」への入学を希望する方は、まず「臨床基礎プログラム」を修了してください。ただし、「臨床基礎プログラム」を修了されても、入学面接に合格しなければ、「ディプロマプログラム」に入学することはできません。入学が認められると、「臨床基礎プログラム」での取得単位はすべて「ディプロマプログラム」の単位として認められます。

「臨床基礎プログラム」は、プロセスワークの基礎をしっかりと学び、専門職の現場に生かしたい方なら、どなたでも歓迎します。ケース・スーパービジョンが必修となるため、人とかかわる現場を持ち、ケースとして提示できることが入学の条件となります。プロセスワークについて、またさまざまな臨床に関わるトピックについて、幅広い興味関心をもって積極的に学び、自らの変容をめざす意欲をお持ちの方をお待ちしています。

\*\*\*

このハンドブックでは、まずプロセスワークや日本プロセスワークセンターの沿革、3つのトレーニングプログラムの大枠についてご説明した後に、「臨床基礎プログラム」の詳細をご案内しています。とりあえず「臨床基礎プログラム」について知りたいという方は、「Ⅳ. プロセスワーク臨床基礎プログラム」をご覧ください。

このハンドブックをお読みになってのご質問やさらなる詳細などについては、どうかお気軽に日本プロセスワークセンター事務局までお問い合わせください。

日本プロセスワークセンター事務局

E-mail: info@jpowc.jp

Website: <http://www.jpowc.jp>

Tel&Fax: 03-3485-4208

(電話受付：毎週金曜10:00-13:00、14:00-17:00のみ)

〒156-0041 東京都世田谷区大原 1-3-11

\*\*\*\*\*

このコースハンドブックは、プログラムを進めていく上で常に参照するガイドブックのようなものです。大切に保存し、時に応じて参照してください。

プロセスワークのトレーニングプログラムは、よりよいプログラムとなるために常に変化を続けています。プログラム在籍中にプログラムのシステムが変わることも珍しくありません。

大きな変化の場合、在籍中の学生は、自分が入学した時点でのシステムで続けるか、新しいシステムに移行するかを選ぶことができます。特に後者の場合には、入学した時点でのコースハンドブックを修了時まで使用することが必要となりますので、そのためにも大切に保存してください。

プログラムのシステムやハンドブック更新のお知らせは、学生向けメーリングリスト [jpwc-cpdp](mailto:jpwc-cpdp) でお伝えします。また日本プロセスワークセンターのホームページ [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) で最新版のハンドブックがダウンロードできます。

\*\*\*\*\*

# I. プロセスワークについて

## プロセスワーク／プロセス指向心理学とは

プロセスワークは、プロセス指向心理学とも呼ばれ、個人や集団、社会のレベルまでふくめた変容についての学際的なアプローチです（以下「プロセスワーク」と呼びます）。1970年代に、チューリッヒのユング研究所の心理臨床家であったアーノルド・ミンデル博士が病を「無意識の意味深い表現」として研究をはじめたところから発展してきました。ユング心理学、コミュニケーション理論、タオイズム、物理学、禅宗、シャーマニズムなどから学びつつ、現在では葛藤解決に効果的なグループファシリテーション技法としても注目を集めています。

プロセスワークは、人生において問題あるいは痛みとして体験されるような領域への、新しい取り組み方を提案します。問題の解決は問題そのものの中に含まれていると考えるのです。身体症状や関係性の問題、グループ内の葛藤や社会的な緊張状態なども、子どものような好奇心や深い尊重の念をもって取り組めば、個人および集団の成長にとってきわめて重要な新たな情報をもたらしてくれると考えます。

プロセスワークは、セラピーの包括的パラダイムとして、人間の経験の全領域を扱うことを意図しています。また、個人や家族やグループがその自覚を広げ、創造性を伸ばしていくための実践的な枠組を提示します。プロセスワークがこれまでに応用されてきた分野は実に幅広く、深刻な病や死にゆく人とのワーク、葛藤解決、変性意識状態や極限意識状態（いわゆる精神病状態）、アディクション（依存症）、家族療法や関係性のワーク、数人から数百人にわたるグループプロセス、組織変革などがありますが、その範囲はさらに広がりつつあります。

## 国際的コミュニティ

1982年にミンデルが最初の著作『ドリームボディ』を出版してから、スイスのチューリッヒの彼のもとにはさまざまな国から学びたいという人たちが集まり、自然にコミュニティを形成しました。ここで最初のトレーニングプログラムが開始されます。90年にミンデルおよび中核的メンバーの何人かがアメリカに戻り、オレゴン州ポートランドにポートランドプロセスワークセンター（現プロセスワーク研究所 Process Work Institute: PWI）を設立してからは、さらに世界各地にセンターやトレーニングプログラムが自然発生的に増えてきました。現在では、スイス、アメリカをはじめ、日本、オーストラリア&ニュージーランド、カナダ、イギリス、アイルランド、ポーランド、スロヴァキア、ギリシャ、メキシコ、デンマーク、イスラエルなど多くの国々で、学生と教師の国際的なコミュニティが活発に活動しています。2年に1度、数百人の参加者を数十カ国から集めて行われるワールドワークセミナーが20年近く続いているのはその一例です。

2005年には、世界各地の認定プロセスワーカーが専門家として協力しあい、教育や調査研究を進めるために、国際プロセス指向心理学協会(International Association of Process Oriented Psychology: IAPOP)が設立されました。2006年にはロンドンで第1回 IAPOP 国際

学会が開かれ、第2回はポートランドで2010年2月に開催されました。

日本プロセスワークセンターは、IAPOPの基準に基づいたプロセスワークトレーニングプログラムを提供する機関として、国際的ネットワークの一翼をになっています。当センターのプログラムでは、ワールドワークなどの海外でのプロセスワークセミナーへの参加もお勧めしています。海外のセミナーや認定プロセスワーカーとのセッションも、プログラムの単位として認められます。

### <参考：世界のトレーニングプログラム>

プロセスワークのトレーニングプログラムは、世界各地のセンターの自主的な運営に大きくまかされていますが、最上級プログラムである「ディプロマプログラム」だけは、一定の国際基準があり、開設にはIAPOPの認可が必要です。

日本プロセスワークセンターはこれまで、ポートランドのプロセスワーク研究所（PWI）のプログラムを範としてきましたが、PWIのプログラムも近年大きな変化を遂げました。2010年4月現在、PWIでは下記の4つのプログラムが運営されています。

- 1) プロセスワークディプロマ／修士課程 Diploma/Master in Process Work Program： 認定プロセスワーカー（ディプロメイト）養成プログラム。プロセスワークの全応用領域についての一定の知識と臨床能力を育成。4年間のコホート制（章末の注参照）。

ディプロマプログラムとプロセスワーク修士課程は、以前は別々のプログラムとして運営され、後者ではポートランドに住むことが必須でしたが、2007年にディプロマ／修士プログラムとして統合されました。それまでのディプロマプログラムは学生個人の流れや成長に合わせて修了までの期間が異なり、人によっては10年を超えることもあったのですが、コホート制はより短期（4年間）で修了できるプログラムです。ただし、ディプロマプログラムなどで教える資格を得るためには、ディプロマプログラム修了後さらに2年間のトレーニングが必要になりました。

- 2) 組織変革と葛藤ファシリテーション修士課程 Master of Conflict Facilitation and Organizational Change： ワールドワークをはじめとする葛藤解決やグループファシリテーションへのプロセスワークの応用に焦点を絞ったプログラム。3年間のコホート制。
- 3) 資格プログラム Certificate of Study in Process Work / Certificate Program： プロセスワークの枠組の中で個人の関心を追及するプログラム。2年程度。
- 4) 独立学習プログラム Independent Study Program

2009年に開設された短い入門編プログラム。プロセスワークの幅広い応用領域のうち一つに焦点を当て、個人の関心やペースに合わせて進める。

いずれのプログラムも、ふだんは遠方に住んでいても学べる形になっています。ただし、

- 1) は年に3回、2) は年に2回、ポートランドで1回10日間の集中クラスを履修する必要があります。

世界各地のトレーニングプログラムについて知りたい方は、当センターサイトの「リンク集」のページから各センターのサイトに行くことができます。また、中心的なサイトは以下の通り

です。

- PWI ホームページ：[www.processwork.org](http://www.processwork.org)
- ワールドワーク：[www.worldwork.org](http://www.worldwork.org)（2008年ワールドワークロンドン以降）
- IAPOP ホームページ：[www.iapop.com](http://www.iapop.com)

注）コホート制：同じ時期に入学した学生が一つの学習グループ（コホート）となり、そのまま卒業までともに学ぶ形式。ふだんは遠距離にある学生同士でも卒業まで一緒に学ぶ仲間同士のつながりを深められるのが特徴です。学年制と違うのは、入学申込者が一定の人数に達するまで開講されない、つまり毎年開始されるとは限らないという点です。

## Ⅱ. 日本プロセスワークセンターについて

### 沿革

日本プロセスワークセンター（Japan Process Work Center: JPWC）は、国際プロセス指向心理学協会（International Association of Process Oriented Psychology: IAPOP）の一員としてプロセスワーク公式トレーニングプログラムを提供する任意団体です。

日本プロセスワークセンターは、次のような目的を持って活動しています。

1. プロセスワークの普及および学習機会の提供
  - 広く一般の方向けのプロセスワークセミナーやイベントの開催
  - プロセスワークを深く学びたい方のための公式トレーニングプログラムの実施
2. プロセスワークに関心を持つ方々の交流の促進、コミュニティづくり
3. プロセスワークがもつ方法論や考え方を通して、個人やグループ、組織や社会が直面する問題についての理解や自覚を高めることを促進し、社会に貢献すること

日本プロセスワークセンターの始まりは、2001年4月の「プロセス指向心理学資格プログラム」開始に遡ります。続いてプロセスワークの最上級トレーニングプログラムである「ディプロマプログラム」開講の準備が進められ、2004年にはプログラムの運営組織として「プロセスワーク・ジャパン」を設立、2005年7月にこれを「日本プロセスワークセンター」と改称して、現在に至ります。そして2005年9月に「ディプロマプログラム」が開講され、日本でも本格的なトレーニングが行えるようになりました。

さらに2008年4月より、それまでのプログラムを3つのプログラム（「基礎プログラム」「臨床基礎プログラム」「ディプロマプログラム」）に再編し、またレベル別トレーニングセミナーを年間を通して定期開催することで、初級から上級までプロセスワークを一貫して学べる体制を整えました。2010年3月末には、「臨床基礎プログラム」の初めての修了生が誕生しました。そして、「臨床基礎プログラム」修了を入学要件としたために学生募集を一時停止していた「ディプロマプログラム」を、2011年4月に再開する運びとなりました。

### 日本プロセスワークセンターの組織

日本プロセスワークセンターは、下記のような組織構成で運営されています。P10に全体の組織図を掲げています。各役職の担当者氏名は、巻末資料Ⅱ「日本プロセスワークセンタースタッフ一覧」（56ページ）をご覧ください。

#### ファカルティ（教員）

ファカルティとは、プログラムの教育面および管理運営面に責任を持つ教員です。プロセスワークのトレーニングプログラムのファカルティになるためには、認定プロセスワーカーであ

ることが必要です。

日本プロセスワークセンターのファカルティは、日本出身の認定プロセスワーカーで構成されており、日本におけるプロセスワーク公式プログラムのあらゆる面での管理運営を行います。その業務内容には、入学申込の受理及び検討、プログラムの教育内容および指針の設定・検討・改訂、セミナー等の学習機会の提供、セラピスト／スーパーバイザー／教師と学生との間に学習上有益な関係性を作り出すお手伝い、学生が自身で作成した学習計画を達成した際の証明、ならびに資格名称授与などがあります。

ファカルティはまた、センターのプログラムの学生コミュニティをこえて、プロセスワークに興味のある方々全体（プロセスワーク・コミュニティ）にとっても有益なように、トレーニングを調整していくこともめざします。さらに日本における認定プロセスワーカーのための、教育資格、継続教育、必須のスーパービジョンのガイドライン作りも行います。加えて、学生に教師に対する苦情がある場合に、それを訴えることのできる倫理委員会を設置します。

ファカルティの詳細なプロフィールは、日本プロセスワークセンターのウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) の画面左にある「日本プロセスワークセンターについて」をクリックし、下に出てくる「認定プロセスワーカー一覧」ページでご覧いただけます。

### **ファカルティ会議**

日本プロセスワークセンターの最高意思決定機関は、全ファカルティが参加するファカルティ会議です。ファカルティ会議は、具体的な事業方針の策定を行うコア・ファカルティ数名を指名し、その提案や報告にもとづいて、全般的な方針の決定を行います。コア・ファカルティは、ファカルティ会議の承認を得て事業を実施し、ファカルティ会議に報告します。

### **コア・ファカルティ（中核教員）**

コア・ファカルティは、センターの実際の運営の中心となって方針策定や実施を行うファカルティメンバー数名のことを示します。

うち 1 名は事務局長、1 名はトレーニング・ディレクターです。事務局長は日本プロセスワークセンター事務局を設置・統括し、運営全般の方針策定および実施、そして学務運営に責任を負います。トレーニング・ディレクターは、トレーニングプログラムの教育内容策定、実施に責任を負います。この 2 名は互いの業務の補助も行います。

### **事務局**

日本プロセスワークセンターの運営の実務全般を行います。運営方針などはファカルティ会議の委任を受けて事務局長が決定しますが、学務等の詳細業務を行う実務担当者をおく場合があります。

### **学生担当**

ファカルティのうち、学生がトレーニングプログラムを円滑に進めていけるよう学生からのあらゆる相談にのるのが学生担当です。とくに、学生とセラピスト／スーパーバイザー／教師の関係性のトラブルや、事務局やセンター全般の運営に対しての要望など、学生が一人では解決しにくい問題について、学生の立場を重視しつつファシリテートしていきます。

### **特別アドバイザー**

ファカルティは認定プロセスワーカーで構成されますが、ファカルティ会議は、認定プロセスワーカー以外の特別アドバイザーをおくことができます。アドバイザーは組織運営についてのアドバイスをするものとします。(2009年度までは「ファカルティ会議特別アドバイザー」という名称でしたが、アドバイザーがファカルティ会議に出席しない場合もあるため、「特別アドバイザー」の名称に変更しました。)

### **理事会**

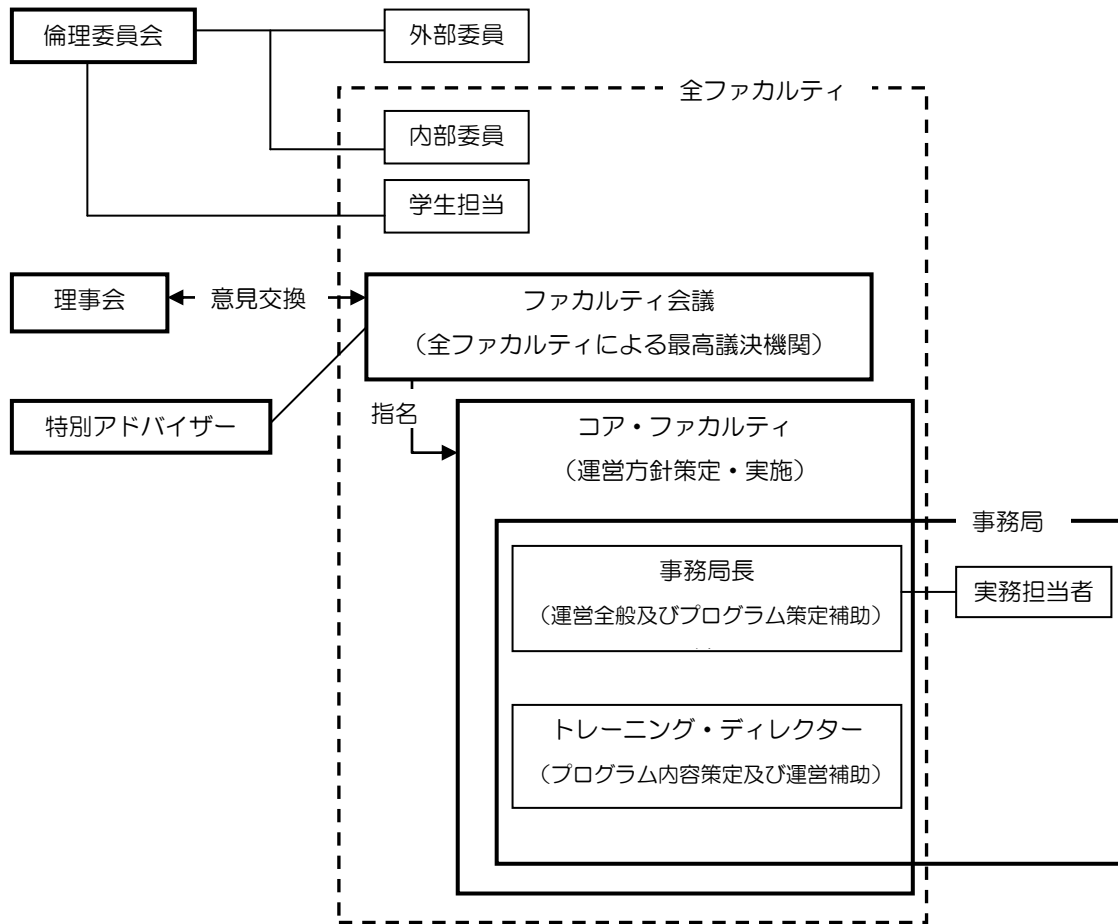
ファカルティ会議はまた、諮問機関として理事会を設置し、とくにセンターのプロセスワークコミュニティ全般への貢献についてその意見を傾聴します。理事には、日本において長年にわたってプロセスワークを愛し、普及に貢献して下さった方々をお願いしています。

### **倫理委員会**

ファカルティ会議はまた、倫理委員会を設置します。倫理委員会は、ファカルティから出される内部委員1名、プロセスワーク以外の領域の有識者から選ばれる外部委員2名で構成され、互選で選定されます。

倫理委員会は、プロセスワークを行う上での倫理基準の策定を行います。また、プログラムの学生と教師(スーパーバイザーとスーパーバイジーを含む)の関係性において何らかのトラブルがあり、学生担当のレベルで解決に至らなかった場合に、調査・勧告を行い、問題の解決を図ります。

図 1：日本プロセスワークセンター組織図



\*組織図は近日改定予定

## Ⅲ. 日本プロセスワークセンター

### プロセスワーク公式トレーニングプログラム

#### 3つのトレーニングプログラム

プロセスワークは、動きや身体感覚など、ふだんなかなか目を向けられない知覚や創造性を重視します。生まれてこのかた見てこなかったものが見えるようになるには、ある程度の時間がかかるものです。また一対一の個人臨床から社会・組織のワークまで扱う範囲が幅広く、応用領域が多岐にわたるため、すべての分野を学ぶには長い時間とエネルギーがかかります。その一方、プロセスワークのユニークな発想に少しふれるだけでも、日ごろの考え方や人との付き合い方が変わったり、トラブル解決の糸口がつかめたりします。日々の暮らしがより気持ちよく豊かに変わるヒント、楽しく遊んだり創造力を刺激するワクワク感は、いつでもどこでも使えるものです。

日本プロセスワークセンターでは、そのようなプロセスワークのさまざまなニーズや使い方にあわせて、また基礎から上級の応用まで一貫して学べるよう、「基礎プログラム」、「臨床基礎プログラム」、「ディプロマプログラム」の3段階にわけてトレーニングプログラムを提供しています。各プログラムで取得した単位はすべて、より上級のプログラムの単位あるいは必修時間数として認められます。

それぞれに特色がありますが、いずれも、セミナーへの参加、個人セッション、スーパービジョン、自主学習（ピア・グループを含む）などにより、学生が主体的に学びを進めていくものです。

遠距離にいても履修できるよう、個人セッションやスーパービジョンには電話やスカイプを使うことができます。またメールや会議電話などを使ったイベントやセミナーも開催されます。ただし、セミナーの多くは主に東京で開催されるため、関東以外にお住まいの方には旅費が発生してしまうことをご了承ください。

プログラムの詳細については、各プログラムのコースハンドブックをご覧ください。JPWCウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) から無料でダウンロードできます。印刷されたコースハンドブックの郵送をご希望の場合は、日本プロセスワークセンター事務局 [info@jpwc.jp](mailto:info@jpwc.jp) までお問合せください。

#### ● 基礎プログラム（初級）

プロセスワークの基礎を学んでご自分の仕事や生き方に生かしたいという方に最適なコースです。プロセスワークをどんな目的で使うにしても、必ず役に立ついちばんの基礎を必修セミナーで学び、あとはご自分の希望やニーズに合わせて学習計画を立て、ご自分のペースで主体的に進めていく、当センターのプログラムの中でもっとも自由度の高いプログラムです。

心理臨床や医療などの対人援助職の方から、さまざまな心身ケア技法にかかわる方、自分自身を深く知りより豊かな生き方を探りたい方、ダンスやデザインなどアートや創造性をゆたかに楽しみたい方、グループファシリテーションに特化して学びたい方まで、幅広い興味関心をもって学んでいただけます。

単位制で、セミナーや個人セッションなどの既定の単位数を取得すれば修了できます。修了時には「プロセスワーク初級プラクティショナー」（プロセスワークの知識を生活や専門領域に活かしながら、豊かなライフスタイルを提案・実現できるようトレーニングしたことを日本プロセスワークセンターが証明する資格）が授与されます。

（従来の「資格プログラム」を修了した方は、さらに一定のセミナーに参加することで上記資格を得られます。詳しくは日本プロセスワークセンター事務局にお問合せください。）

- **臨床基礎プログラム（中級）**

プロセスワークを専門職の仕事の現場で使える実践力をつけたいという方に最適なコースです。もともと心理療法に発し、心理臨床や精神医療にかかわる分野を得意とするプロセスワークですが、福祉、教育、司法など人にかかわる分野、あるいは人材開発、組織開発、国際協力や紛争解決などグループや葛藤を扱う現場にも大いに役立ちます。

当プログラムは、専門職の高いニーズにも対応できるだけの深い知識とスキルをしっかりと学び、スーパービジョンで自分自身の実践力を磨いていくことを目的としています。そのため基礎プログラムより必修セミナーやセッション数が大幅に増えています。「ディプロマプログラム」の前期課程（フェイズ1）で学ぶべき理論や知識の8割程度をカバーし、臨床実践に必要な基礎知識の習得と実技のトレーニングが行えるよう構成されています。

基礎プログラムと同じく単位制で、修了時には「プロセスワーク初級セラピスト」（プロセスワークを心理臨床、医療、福祉、教育、司法、経営などの専門分野、臨床現場で活かすための基礎的なトレーニングを行ったことを日本プロセスワークセンターが証明する資格）が授与されます。

- **ディプロマプログラム（上級）**

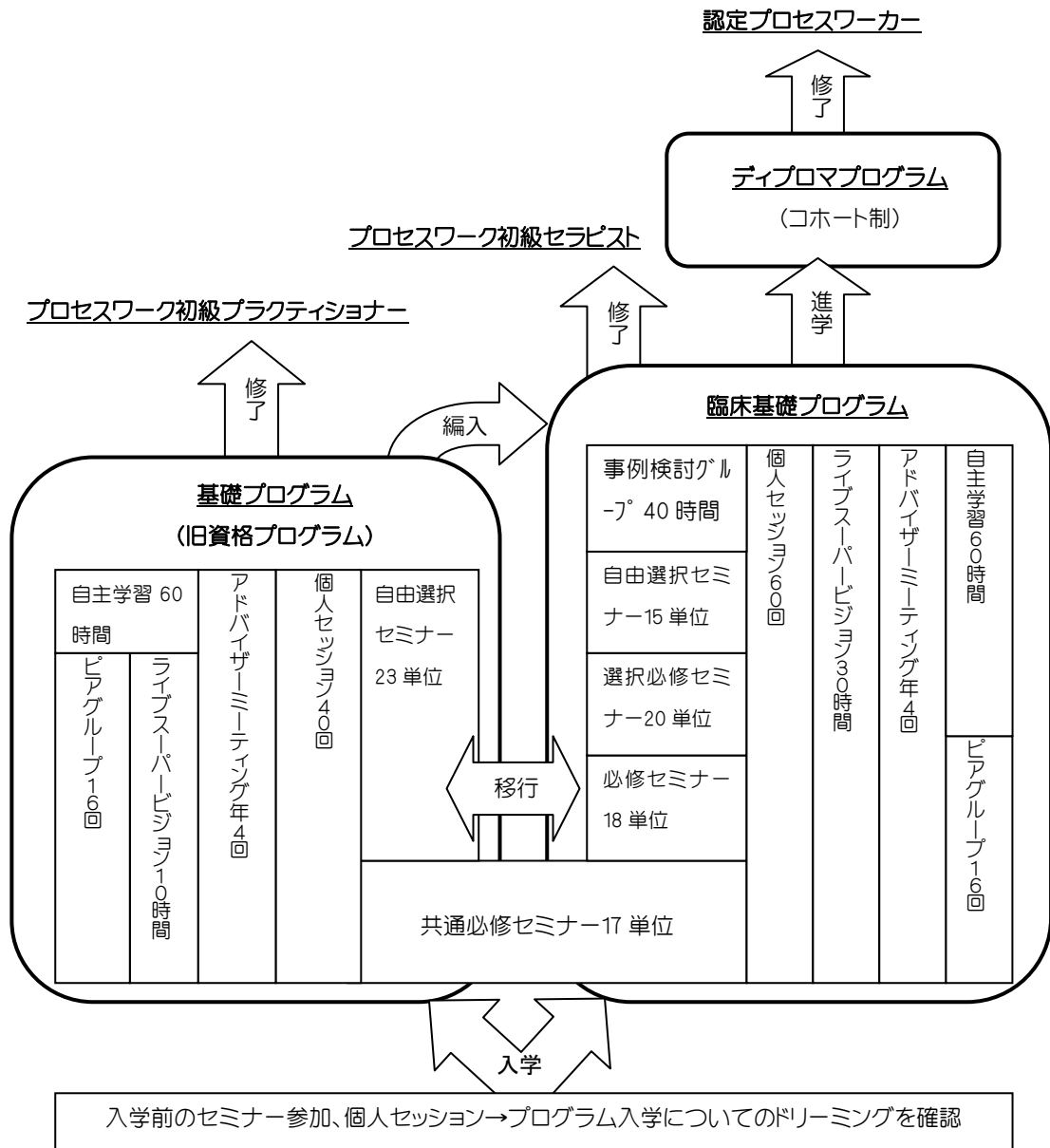
プロセスワークの専門家をめざす方のために、全応用領域にわたって詳細かつ専門的なトレーニングを行うプログラムです。プロセスワークのトレーニングとしては最上級のプログラムで、プロセスワークの広範な応用領域それぞれについて一定の知識と臨床能力を身につけ、それに相応する人格的成長をすることが求められます。自らの生き方を見つめなおし、時には大きな変容を潜り抜けることも要請されます。単位制ではなく、上記の知識、能力、自己成長が認められなければ修了できない点で「基礎プログラム」「臨床基礎プログラム」とは大きく異なります。

また、2011年度以降はコホート制（一定数の入学者がそろったところで開講し、修了までそのグループで一緒に学んでいく形式）を取ることも、他の2つのプログラムと大きく異なる点です。

日本プロセスワークセンターのディプロマプログラムでは、臨床基礎プログラムの修了を入学要件としています。基礎をしっかりと固めた上で、またプロセスワークを学ぶことが本当に自分の人生に大きな意味をもつことを確信した上で入学して頂くためです。ディプロマプログラム入学を目指す方は、まず臨床基礎プログラムにお入りください。

修了時には「プロセスワークディプロマ」が授与され、修了者は「認定プロセスワーカー／ディプロメイト」と呼ばれます。

図 2：日本プロセスワークセンタートレーニングプログラムの流れ



## Ⅳ.「プロセスワーク臨床基礎プログラム」

### 1. 「プロセスワーク臨床基礎プログラム」の特徴

プロセスワーク臨床基礎プログラム（以下、臨床基礎プログラム）は、心理臨床をはじめとする対人援助職や集団を相手とする経営・政治などの専門職の現場で、実際にプロセスワークを活かすことに重点を置いています。プロセスワークの基本から実践までを幅広く学び、プロセスワークの基礎段階におけるワークの体験と理論的学習を統合して、職業現場での実践にプロセスワークを役立てることを目指します。また、そのようなスキルを使うために必須の自己成長をうながすために、学生自身がクライアントとなる個人セッションや、プロセスワークのセラピスト／ファシリテーターとして必須の自己成長をうながすスーパービジョンをプログラムの重要な柱としています。プロセスワーク基礎プログラムに比べて必修セミナーやセッションの数が多く、基礎プログラムにはない事例検討グループによって自分以外のさまざまなケースの実際や短期的・長期的な見立てを学ぶことができ、臨床場面でのより実践的な考え方やスキルを身につけることができます。そのため、入学の時点ですでに人とかかわる現場をお持ちであることが入学の条件となります。

単位制になっており、セミナー、個人セッション、スーパービジョンなどの必修時間数／単位数を取得すれば修了できます。修了年限はありませんが、3、4年で修了できるようデザインされています。

修了者には、「プロセスワーク初級セラピスト」の資格が付与されます。特定の分野を所定の単位以上修得すると＜〇〇専攻＞を付帯することができます。（「7. 修了によって取得できる資格」の項参照）

臨床基礎プログラムはまた、ディプロマプログラム前期課程（フェイズ1）必修単位の多くの部分をカバーするプログラムでもあります。日本プロセスワークセンターでは、臨床基礎プログラム修了をディプロマプログラムの入学要件としています。取得単位はディプロマプログラム入学の際にその必修単位として認められます。

なお、この制度は日本プロセスワークセンター独自のもので、プロセス・ワーク研究所（PWI）など海外のディプロマプログラムとは異なります。海外のディプロマプログラムへの入学をお考えになる場合は、各プログラムの運営組織にご確認ください。また、当プログラムの修了はディプロマプログラム進学の大前提条件ですが、充分条件ではなく、進学を保証するものではありません。

学習の大きな柱となるのは、セミナー、個人セッション、スーパービジョンの3つです。

#### ● セミナー

必修セミナー、選択必修セミナー、自由選択セミナーの3種類があります。

必修セミナーでは、プロセスワークにおいてすべての基本となるドリーミングや目的論の考え方、シグナルやプロセス構造の見立て方などを学んだ上で、主要な応用領域7つの基礎を学んでいきます。

選択必修セミナーでは、学生がさらに学びを深めたい領域を選んで、実践的スキルや

概念を身につけていきます。

自由選択セミナーは、自身の学習計画に従って、日本プロセスワークセンターが主催する各学習分野のトレーニングセミナーから、あるいは各認定プロセスワーカーが主催するさまざまな内容のセミナーから、好きなものをお選びください。

プログラム内容としての必修セミナーについては「6. 学習過程と修了に必要な単位 5. セミナー」の項を、レベル別／領域別のセミナー内容詳細については、巻末資料「日本プロセスワークセンター主催レベル別トレーニングセミナー」をご覧ください。

- **個人セッション**

学生自身がクライアントとして自分自身と向き合う個人セッションは、人にかかわるアプローチのトレーニングとして大変重要です。プロセスワークに限らず、対人援助や自己成長に関わるスキルや考え方を学ぶことは、それを使う自分自身の内面と向き合い、自覚し、はぐくんでいくことと深く関わっています。ただ知識として知るだけでは、使いこなすことができません。そのための自己成長をうながすのが、個人セッションです。

- **スーパービジョン**

対人援助の現場を想定して行うスーパービジョンは、自分のスキルを磨く重要なトレーニングです。スーパービジョンセミナーとしてグループで行う場合と、学生一人一人が個人スーパービジョンを行う場合があります。また、学生が 2～5 人程度の自主的なスーパービジョングループを作り、グループスーパービジョンを行うことも可能です。

スーパービジョンには、次の二つの形式があります。

- 1) **ライブ・スーパービジョン**

学生自らがセラピスト役となり、スーパーバイザーの前で実際にワークを行い、フィードバックを受ける形式です。プロセスワークのトレーニングの特徴のひとつは、「ライブ・スーパービジョン」を重視することです。場に起きている「プロセス」をどう見立て、どうかかわって行けるのかを、そこにいる自分自身のありかたを含めて、まさにその場に即して学び、自由に話し合っ深めていく、生きた学びの機会です。

(クライアント役には、深い自己開示が起こる場合もあるため、その場に起きたことをご自身の責任で扱える方をお願いしてください。基本的には学生同士で行います。)

- 2) **ケース・スーパービジョン**

ご自分のクライアントとのかかわりをケースとしてスーパーバイザーと検討する場です。ケースについて報告することが振り返りをうながす重要な機会となるだけでなく、ケースをプロセスワークの視点で考え、またクライアントの立場になってみると、自分がどこで先に進めなくなってしまうのかを検討することなどを通して、ケースについても、また自分自身についても、理解を深めていくことができます。

## 2. 「臨床基礎プログラム」が対象とする方

当プログラムは、心理臨床をはじめ医療、福祉、教育、司法、経営などさまざまな分野にプロセスワークを取り入れて実践に活かしたい、さらにスキルアップを目指したいという方、また、このような現場をお持ちでディプロマプログラム進学を目指す方々を対象としています。プロセ

スワークは心理療法として出発しましたが、現在は組織運営や国際紛争まで応用される幅広いアプローチです。心理療法やカウンセリングの分野で働く方をはじめ、看護や医療、福祉、ソーシャルワークなど心身の健康や地域コミュニティにかかわる方、司法や調停、平和構築など葛藤解決にかかわる方、経営、人事、コンサルタントなど組織にかかわる方、学校など教育の現場でお仕事をされる方など、さまざまな職業分野の方々を歓迎いたします。

どのような分野であれ共通して応用できるプロセスワークの基本を、まず必修セミナーを通じて理解し、その上で各自の職業的必要や興味に応じてさまざまな応用領域を専門的に学ぶことができます。臨床基礎プログラムを修了される時には、プロセスワークの基本的な考え方を身につけ、実際の職場などでのプロセスワークの基本的技法の使い方を理解されていることでしょう。

### 3. トレーニングの実施場所と主な連絡手段

#### 3-1. トレーニングの実施場所

学生には、学習の機会となるセミナーやクラス、学生ミーティングなどさまざまなイベントに自分から積極的に参加することが求められます（セミナーやクラスの多くは、学生に限らず一般の方にも開かれています）。

また、個人セッションやスーパービジョンや学生同士の勉強会なども、自らスケジュールを決め、相手に連絡し、予約を取るなど、主体的にプログラムを進めていくことも必要です。つまり、トレーニングの実施場所は、まずご自宅であり、さらにクラスやセミナーや勉強会などが行われる場所ということになります。

トレーニングセミナーや講座の多くは東京で催されますが、他の都市で行われることもあります。また、会議電話やスカイプ（章末注参照）、インターネットを使ったセミナーが行われることもあり、この場合は自宅に居ながら電話やインターネットを使ってクラスに参加することができます。

また、在学中のどこかで、米国など海外で開催されるセミナー（ワールドワークセミナーやインテンシブセミナーなど）に参加されることもおすすめします。プロセスワークは多様性を重視するアプローチであり、国際的な多様性を経験することは大きな学びの機会となると考えているからです。

セミナーやクラスの具体的な実施については、日本プロセスワークセンターおよびセミナーを主催する各認定プロセスワーカーが責任を負います。開講予定のクラスの詳細などは、日本プロセスワークセンターの年間スケジュールパンフレット、またウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) 「セミナー・イベント」のページをご覧ください。また、各セミナーの開催前には、学生向けメールリングリスト [jpwc-cpdp](mailto:jpwc-cpdp) でも詳細をお知らせします。

注) 会議電話：同一の電話番号に複数の人が同時にかけることで、まるで同じ部屋にいるかのように話し合うことができるものです。下記の会議電話では電話番号の使用料は無料ですが、その番号までの長距離通話料金あるいは国際電話料金は各利用者負担になります。

- ・プラステルチャットカフェ

日本の格安海外電話会社です。東京・大阪・名古屋のアクセスポイントまでの電話料金を負担

すれば、会議電話自体は無料で使えます。

[www.brastel.com/Pages/jpn/corporate/conference.html](http://www.brastel.com/Pages/jpn/corporate/conference.html)

• Phoneconference

北米の会議電話会社です。国際電話料金はかかりますが、会議電話の使用料は無料です。

[www.phoneconference.com](http://www.phoneconference.com)

注) スカイプの会議電話：スカイプというソフトウェアをご自分のコンピュータにダウンロードすることで、同じソフトウェアを入れたコンピュータ同士なら、インターネットを通じて無料で通話できます。複数で会議電話をしたり、ネット通信用ビデオカメラを接続してTV電話として使うこともできます。ただし、上記の通常の電話回線を使う通話に比べて音質が劣ったり、時に途中で切れてしまうことがあります。

[www.skype.com](http://www.skype.com)

### 3-2. 主な連絡手段

日本プロセスワークセンターの学生の方は日本各地にいらっしゃるため、事務局からの情報提供や事務局との連絡には主に電子メールを使っています。

電子メールのアドレスをお持ちでない方は、入学までに電子メールアドレスを取得し、事務局へお知らせください。

事務局はそのメールアドレスを学生用のメーリングリスト jpwc-CpDp に登録します。このメーリングリストは、事務局からセミナー情報やプログラムのシステムの変更など重要なお知らせをお届けすると同時に、学生同士が勉強仲間を探すなどの場としても使われます。学生用メーリングリストのメールには必ず目を通すようにしてください。

また、新入生歓迎ミーティングや学生ミーティングなどをスカイプの会議電話を通じて行うため、スカイプへの加入も入学前に行ってください。[www.skype.com](http://www.skype.com) からソフトウェアをダウンロードし、スカイプ名を事務局までお知らせください。導入に際してマイクとイヤフォンつきのヘッドセットをご購入頂く必要がありますが、通話料金は無料です。

## 4. 入学手続き

入学には、大きく分けて3つのステップがあります。

- 1) 認定プロセスワーカーと入学に関するセッションを行い、入学が自分の「道」であることを確認する（下記 4-2-1 参照）
- 2) 入学納入金を振り込む（下記 4-2-3 および 9 参照）
- 3) 入学書類を日本プロセスワークセンター事務局あてに送付する（下記 4-2-4 参照）

\* 「旧資格プログラム」「基礎プログラム」を修了した方が「臨床基礎プログラム」に編入する場合は、「8-3「基礎プログラム」（および旧資格プログラム）修了後の編入」をご覧ください。

#### 4-1 入学の時期

入学日： 毎年4月1日および10月1日の年2回

申込締切： 4月入学者：毎年2月末日

10月入学者：毎年8月31日

\*上記申込締切日までに入学書類が事務局に到着していること。

#### 4-2 申込手続き

##### 4-2-1. 認定プロセスワーカーとの入学前個人セッション

入学申込みに先だって、入学に関するご自身の「ドリーミング」をワークするために、認定プロセスワーカーと個人セッションを行ってください。「臨床基礎プログラム」では、二人の認定プロセスワーカーと個別にセッションを行うことが必要です。プログラムに入学してプロセスワークを学ぶことがご自分の人生の「道」にかなっているかどうか、その準備が意識のレベルだけでなく無意識のレベルでもととのっているかどうかをセラピストとともに確認していきます。無意識のレベルを見ていくには夜見る夢が大きな助けになりますので、「プロセスワーク」や「プログラム入学」に関わっていると感じられる夢がありましたらセッションでお話してください。また、当プログラム入学の要件である心理臨床、医療、福祉、教育、司法、経営など、人にかかわる仕事の専門家またはそれを学んでいる学生という意味での臨床現場があることも、二人で確認してください。

「臨床基礎プログラム」への入学がご自身の「夢」に支持されていることその個人セッションで明確になり、ご自分でも確信が持てた後に、入学の申込みを行ってください。各認定プロセスワーカーとのセッションは、1回のセッションで「夢」が明確にならない場合、複数回行う場合もあります。

セッションを行うセラピストは、認定プロセスワーカーであれば誰でもかまいません。日本語でセッションを行う認定プロセスワーカーの連絡先やプロフィールについては、日本プロセスワークセンターのウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) の画面左にある「日本プロセスワークセンターについて」をクリックし、「認定プロセスワーカー一覧」ページをご覧ください。在住地域が遠方などの理由で対面でのセッションが難しい場合は、電話やスカイプ、ビデオチャットを利用したセッションも可能です。

以前から認定プロセスワーカーとの個人セッションを継続して行っている方は、そのセラピストと入学についてのセッションを行ってもかまいません。

なお、入学前1年間に行った個人セッション、スーパービジョン、またセミナーへの参加は入学後の単位に加算することができます。この入学のためのセッションも、入学後の必修個人セッションの単位に含めることができます。

##### 4-2-2. 推薦状の送付

セッションによってプログラム入学を促すドリーミングが確認できたら、2人の認定プロセスワーカーそれぞれから事務局あてに推薦状を書いてもらってください。推薦状は、他の入学書類といっしょに提出しても、認定プロセスワーカーから直接事務局に送ってもかまいません。形式は自由、Eメールでの送付も可です。

### 4-2-3. 納入金の振込み

公募に先立って発表されるそのつどの募集要項をよくお読みの上、初年度納付金を下記振込先宛に納入し、それを証明する書類（振込明細書）を得てください。「9. プログラム履修費用」を参照してください。

- みずほ銀行 北沢支店  
普通口座 1137454  
口座名義 日本プロセスワークセンター
- ゆうちょ銀行 加入者名：日本プロセスワークセンター  
口座番号：10250-92891801

\*入学前1年間に参加したセミナーがプログラムの必修セミナーに当たる場合：

初年度納入金からその参加費分を差し引いた額を納付してください。納入金額を確定するには、参加セミナー名と参加した年月日を明記して、事務局までお問い合わせください（セミナー修了証がある方は、そのコピーをお送りいただけると幸いです）。折り返し金額を確定してお知らせ致します。お問合せは、入学申込締切に間に合うよう、締切日の3週間前までにお問い合わせ致します。

### 4-2-4. 送付書類

公募に先立って発表されるそのつどの募集要項をよくお読みの上、下記書類を日本プロセスワークセンター事務局宛にご送付ください。申込締切日までに事務局必着とします。

- 1) 「臨床基礎プログラム」入学申込書  
用紙は当センターホームページ [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) からダウンロードできます。  
ダウンロードできない場合は事務局までご請求ください。
- 2) 認定プロセスワーカーからの推薦状、計2通（「4-2-2 推薦状の送付」参照）  
推薦状用紙も申込書と同時にダウンロードできますが、所定の用紙を使わず認定プロセスワーカーの任意の書式でもかまいません。  
認定プロセスワーカーから直接事務局へ送られる場合は、他の書類の提出の際にその旨お書き添えください。
- 3) 履歴書  
学歴や職歴など。形式自由。写真添付のこと。
- 4) 小論文：A4用紙で2枚以内、2500字程度  
なぜ、プロセスワーク/プロセス指向心理学に興味を持ち、「臨床基礎プログラム」への入学を希望するに至ったかについて述べたもの。  
入学に際しての「夢」のワークの内容を含めること。
- 5) 振込明細書のコピー

#### ● 送付方法

- 1)～4) はできる限り Eメールに添付ファイルの形でお送りください。各フ

イル名にはご自分の名前を入れてください。(郵送または fax でも受け付けます。)

- 5) は ファックス または 郵送 でお送りください。スキャナーでコピーしたものを Eメールに添付して送付してもかまいません。

- 送付先：日本プロセスワークセンター事務局

email: info@jpowc.jp

fax: 03-3485-4208

郵便：〒156-0041

東京都世田谷区大原1-3-11

**<よくお読みください>** 一度納入された納入金は、何らかの理由で入学が受理されない場合、申込み後に入学を辞退されるような場合、またはプログラムを中途退学されてすでに参加費を支払ったセミナーに参加されない場合でも、払い戻しいたしません。

「臨床基礎プログラム」入学が本当にご自分のプロセスであることをしっかりと確認された上で、入学手続きを行ってください。

#### 4-2-5. 入学の受理と「学生記録」

入学が受理されると、「学生記録」をはじめとするプログラムを進めるのに必要な書類一式が届きます。

「学生記録」は、行ったセッションやセミナーを記録しておくためのものです。セッションやセミナーのつど、参加したことの確認として、セラピストや講師のサインをもらってください。アドバイザーが学習の進捗を確認する際や、卒業認定の際の大切な記録となりますので、大切に記録し、保管してください。

「学生記録」を紛失された場合は、どのような理由であっても、再発行手数料¥10,000を頂きます。再発行された「学生記録」には、それまでに行ったセッションやセミナーを再度記載していただくこととなります。JPWC 主催のセミナーについては事務局でそれまでのご参加を確認し記載しますが、センター主催以外のセミナーや、個人セッションおよびスーパービジョン等については、各学生の責任において、各セラピスト、スーパーバイザー、講師等のサインを別途もらってください。

## 5. 新入生歓迎ミーティングと学生ミーティング

### 5-1. 新入生歓迎ミーティング

「臨床基礎プログラム」に入学されると、直後に(4月および10月第一週の土曜夜)新入生歓迎ミーティングが行われます。会場に直接来られる方は対面で、遠距離などで来られない方はスカイプでの参加になります。プログラム全体やシラバスについて、またこれからの学習について、分からないことや不安な点について、コアファカルティが中心となってお答えしたり、みんなで話し合ったりする場として設けられています。

この新入生歓迎ミーティングには、他のプログラムの新入生および在籍中の学生も参加しま

す。入学直後の学生にとっては、先輩学生の体験談や、学生ならではの学びの知恵を聞くことができる場でもあります。また、新入学生と先輩学生、学生とファカルティの交流の場、ピア・グループのメンバーを見つける場でもあります。日程等詳細は、メーリングリストや日本プロセスワークセンターの年間スケジュールカレンダーまたはウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) でご案内します。

## 5-2. 学生ミーティング

プログラムを進めていくにはともに学ぶ仲間が存在が大切な支えになりますが、日本各地に在住する学生とファカルティは、ふだんなかなかみんなで顔を合わせる機会がありません。そのため、年に2回、学生ミーティングが開催されます。1回は実際に顔を合わせて、もう1回はメーリングリストと会議電話を使って行います。

当センターのすべてのプログラムの学生とファカルティがあつまり、学習上必要な情報提供や問題点などについて話し合い、学生とファカルティとの交流はもちろん、共に学ぶ仲間として学生同士のコミュニティを作っていくことを目的としています。会う機会が少ないため、ややもすれば孤立しがちな学生同士が、いろいろな人や立場のナマの声を聞いたり、学習上で困った点について話し合うチャンスでもあります。この場が豊かな交流の場になるかどうか、そしてよりよいプログラム作りができるかどうかは、お一人お一人が参加してくださるかどうかにかかっています。はじめはちょっと面倒に感じられるかもしれませんが、どうかできる限りご参加ください。日程等詳細は、メーリングリストや日本プロセスワークセンターの年間スケジュールカレンダーまたはウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) でご案内します。

## 6. 学習課程と修了に必要な単位

「臨床基礎プログラム」は、学生自身が自分の興味や関心にしたがって自ら方向を定め、主体的に進めていくプログラムです。自分がどのような学習目標に向かってどのように学ぶかは、学生自身が作る「学習計画」によって決定されます。プロセスワークをよく知るアドバイザーと相談しつつ、修了要件を満たし、かつご自分の満足のいく学習計画を作り、それを指針としてプログラムを進めていきましょう。

### 6-1. 「臨床基礎プログラム」の修了要件と学習の流れ

「臨床基礎プログラム」の修了要件は下記の通りです。学習計画は、これらを必ず含むものとしてください。その中でも学習の大きな柱となるのは、1) トレーニングセミナー、2) 個人セラピー、3) スーパービジョンの3つです。

1. アドバイザーミーティング年4回
2. 個人セッション60回
3. セミナー70単位：必修55単位、自由選択15単位
4. ライブ・スーパービジョン30時間

うち6時間はセミナーでのオープンシート（セミナーにおいて参加者の前で

- セラピスト役となりクライアント役の参加者とワークすること)で代替可能
5. グループでのケース・スーパービジョン(事例検討) 40時間  
うち20時間は個人で行うケース・スーパービジョンと代替可能
  6. ピアグループ 16回
  7. 自主学習 60時間
  8. 卒業小論文: ケースについての報告(原稿用紙 20-25枚/8000-10000字)  
をアドバイザーに提出

学習計画ができたなら、その後はそれにしたがって、必要があれば計画を修正しながら、学習を進めていきます。その実施状況は、入学後に送付される「学生記録」に学生自身が記録します。セッションやセミナーでは、アドバイザー、セラピスト、セミナー講師/主催者から履修を証明するサインをもらってください。また、年に4回、アドバイザーと定期的にミーティングを行い、学習が計画に沿って進んでいるか、結果はどうか、修正が必要だとすればどこか、問題があるとしたらどのように解決するかなどを話し合います。全単位の半数ほど取得できた時点で、中間考査を行い、それまでの学習過程を大きく振りかえり、その後の学習計画の見直しを行います。中間考査はまた、「ディプロマプログラム」入学の意思があるかどうかを確認する機会にもなります。

すべての単位を取得し、小論文を提出し終えたら、アドバイザーミーティングで学習計画がすべて達成できたかどうかを振り返り、アドバイザーから修了の承認を得てください。

なお、学習過程のどこかで、日本以外の国で行われるワールドワークなど国際的なセミナーや、国際プロセス指向心理学協会が行う国際学会などへの参加も強くおすすめします。プロセスワークが心理臨床の一学派という枠組をこえて、さまざまな領域、地域、世界において学際的に応用され展開されている様相を実際に体験していただきたいからです。

## 6-2. 入学前の学習

入学前に行った学習(セミナーへの参加、個人セッション、スーパービジョン)については、入学前1年間に限り、修了に必要な単位として含めることができます。4月1日入学の方は、前年4月1日以降に、10月1日入学の方は前年10月1日以降に行ったセミナー、個人セッション、スーパービジョンが、修了要件として認められることとなります。これには、入学に関する夢を扱ったセッションも含まれます。

入学前の学習をプログラムの単位としてカウントするには、入学後に送付される「学生記録」にそのセッションやセミナーを記録し、改めてセラピストまたは講師のサインを受けてください。査定はプログラム修了時に事務局が行います。

ただ、入学前に必修セミナーに参加している場合のみ、その参加費が入学時納入金から差し引かれますので、入学申し込みの際にセミナー名と参加日を事務局までお知らせください。詳しくは「4-2-3 納入金の振込み」の項をご覧ください。

わからないことがあれば、事務局まで直接お問い合わせください。

### 6-3. アドバイザーとメインセラピストの役割と選定

入学後いちばん最初に行うことは、アドバイザーとメインセラピストの選定です。アドバイザーとメインセラピストはともに認定プロセスワーカーでなければなりません。ただし、同じ認定プロセスワーカーが両者を兼任することはできません。アドバイザーは客観的に学生の学習プロセスを支え、助言や情報提供をし、時には審査や評価を行う役割ですが、一方セラピストは学生のプロセスに深く関わりサポートしていく立場であり、そこに審査や評価者としての役割が重なることはセラピーとして不適切になることがあるためです。アドバイザーとメインセラピストには、必ず別の認定プロセスワーカーを選んでください。

アドバイザーとメインセラピストを選ぶためには、まずいろいろな認定プロセスワーカーと個人セッションを行って、相性を確認することをお勧めします。その際のセッションもプログラムの単位としてカウントできます。

なお、個人セッション料金は、認定プロセスワーカーあるいはセラピストによって違います。認定プロセスワーカーによっては、アドバイザーミーティング料金もそれに従って変わります。アドバイザーミーティング料金は、年 4 回分、1 回¥10,000 として先払いで事務局に納入し、事務局から認定プロセスワーカーに支払いますが、セッション料金がそれ以上の額である場合は、差額を学生から認定プロセスワーカーにお支払い頂くことになります。料金については、選定の前に各認定プロセスワーカーにご確認ください。また、「9. プログラム履修費用」の項目もご覧ください。

#### 6-3-1 アドバイザー

アドバイザーは、学生の学習のファシリテーターであり、またプログラム全体を通じて支えとなる人物です。プログラムの進め方をよく知る人物が望ましいため、日本プロセスワークセンターのファカルティから選ぶことをお勧めします。

学生とアドバイザーは、基本的には年に 4 回アドバイザーミーティングを行います。アドバイザーミーティングでは、学生個々のニーズと関心に合わせてプロセスワークを学ぶには具体的には何をどうすればいいか、それをどう評価していけばいいかを、話し合いながら決めていきます。「臨床基礎プログラム」は、決まったルールの上を歩いて学習が達成されるものではなく、常にトライ・アンド・エラーで、学生自らが目標や仮説を立て、実施し、検証して、次の一步を決めていくプロセスです。アドバイザーはそれに対して、そのプロセスがよりスムーズに、豊かになるよう、さまざまな可能性をアドバイスします。学びを妨げているものがあれば、それを指摘し、ワークするよう指示することもあります。具体的には、学習計画書の作成・修正、学習上の困難についての相談、修了に必要な単位の半分を取得した時（「6-10 中間考査」の項参照）の振り返り、休学・復学・退学・修了など学籍に関わる変化のワークや承認などを行います。年 4 回はそれに十分な回数ですが、足りないと感じられる場合は、追加してもかまいません（ただ、その際は別途セッション料金をお支払いください。）

学習を進める主体は学生であり、積極的にアドバイザーに連絡してミーティングの日時等を設定し、指導を求める責任を負います。一方アドバイザーは、学生自身からの質問や問い合わせに真摯に答え、必要な情報を提供する責任があります。

入学後最初のアドバイザーミーティングには、学生が自身で作成した学習計画書を持参してください。その内容をアドバイザーと検討し、必要なら書き直してアドバイザーの承認を受けた上で、事務局に提出します。

その後は3カ月に一度を目安にミーティングを行ってください。ミーティングの日時は、入学後最初または年度初めのアドバイザーミーティングで年間計画を作り、定期的に行うことをおすすめします。学習の定点観測のようなものです。そして実施のつど、2週間以内に「アドバイザーミーティング実施報告書」（巻末資料Ⅲに用紙があります）にミーティングで話し合った内容をまとめ、アドバイザーと事務局に提出します。

修了に必要な単位の半分ほどが取得できた時点で、全体を大きく振り返るために「中間考査」を行います。（6-10「中間考査」の項参照）

プログラム修了の際は、最初に提出した（またはその後に修正した）学習計画の諸項目が果たされたかどうかをアドバイザーミーティングで検証し、学生とアドバイザーが共同で証明して、事務局に通知します。

#### <参考：アドバイザーおよびアドバイザーミーティングについてのタイムテーブル>

- 1) 入学後2カ月以内に、アドバイザーを選定し最初のアドバイザーミーティングを実施
  - 学習計画書の検討、作成
  - その後のアドバイザーミーティングの年間実施予定日を決定
- 2) 最初のアドバイザーミーティングから2週間以内に、「学習計画書」をアドバイザーと事務局に提出
  - 4月入学生：6月の第2週まで、10月入学生：12月第2週まで
- 3) 以後、3か月に1回を目安にミーティングを実施。実施のつど、2週間以内に「アドバイザーミーティング実施報告書」をアドバイザーと事務局に提出
- 4) 単位の約半数が取得できた時点で、アドバイザーと中間考査を行う
- 5) 単位がすべて取得された時点で、アドバイザーと修了の確認を行う

#### 6-3-2 メインセラピスト

「臨床基礎プログラム」では、60時間の個人セッションが必修となります。プロセスワークの個人セッションをクライアントの立場で経験し、自己の内面を深くワークしていくことは、セラピストとしての成長に大変重要な役割を果たすからです。基本的には認定プロセスワーカーと行うものとし、一人のセラピスト（メインセラピスト）と継続的に行うことをおすすめします。

ただ、メインセラピストを選ぶ前にセラピストとの相性を確かめるために数人のセラピストとセッションを行ったり、特定のトピックについてその分野を得意とするセラピストとのワークから学びたいなど明確な学習目的がある場合などは、他のセラピストとワークしてもかまいません。

セラピストが決まったら、その氏名を事務局までお知らせください。セラピストは、認定プロセスワーカーであれば、JPWCのファカルティでなくてもかまいません。ただし、ファカルティでない場合は、セラピストの氏名だけでなく連絡先も事務局までお知らせください。そして、そのセラピストにプログラムについて説明し理解を得るのは学生の責任とな

りますのでご注意ください。

また、アドバイザーの承認があれば、60時間のうち20時間までは、認定プロセスワーカー以外のセラピストとのセッションも単位としてカウントできます。ただし、「ディプロマプログラム」に進んだ場合は、「ディプロマプログラム」の必修セッション時間数としてカウントできるのは認定プロセスワーカーとのセッションのみです。

#### 6-4. 学習計画書

「臨床基礎プログラム」においてどのような学習目標に向かってどのように学ぶかは、学生自身が作る学習計画によって決定されます。学習計画はそれぞれの学生の専門的、個人的関心にそって作るものであり、学生によって異なります。学習計画書とは、それぞれの学生がこのプログラムで何をどのように学ぶかを明確に提示する地図のようなものです。プログラム入学時には漠然としていることの多い希望や方向性を、具体的な行動計画に落とし込んでいきましょう。自分の関心や深い望みに耳を傾け、実現する方策を探って学習計画書を形作っていくこと自体、「臨床基礎プログラム」での学びの第一歩となります。それはまた、プログラム開始から修了までをみちびく学びの「道」に気づいていくことでもあります。

いつ、どのような目的・方法で学習を行うか、その学習成果をどのように査定するか、査定の基準は何かなど、各自の学習を効果的に行うにはどうしたらいいか、まずは学生自身がプランを作ってください。その際には、「6-1.「臨床基礎プログラム」の修了要件と学習の流れ」「6-4. セミナー」等を参考に、プログラム修了に必要な要件を満たすよう注意してください。何を学ぶためにどのようなセミナーに参加し、個人セッションやスーパービジョンでどのようなテーマをあつかい、自主学習として何を行うか、具体的に考えてみましょう。そして、わからない点やよりよく知りたい点を明確にして、アドバイザーへの質問を準備しましょう。

そして、アドバイザー選定後最初のアドバイザーミーティングで、学習計画について相談します。アドバイザーは、プロセスワークやそのトレーニングプログラムについての豊富な知識や経験にもとづいて、各学生それぞれの学習目的が明確になるよう手助けし、またそれを効果的に達成するためにはどのような方法があるか情報提供や助言を行い、具体的な学習プランが作成できるようお手伝いします。学生は、その結果を受けてプランを練り直し、最終的な学習計画書を作成します。最終案に対してアドバイザーの承認が得られたら、学習計画書を事務局に提出してください。

その後も、アドバイザーミーティングのつど、この計画書をもとに学生とアドバイザーで学習の進捗状況を確認します。学びのプロセスの中で目標や方向性が変わってきた場合は、それに応じて修正してもかまいません。

学習計画書は、最初のアドバイザーミーティングから2週間以内に事務局に提出してください。（最初のアドバイザーミーティングは入学後2カ月以内に行うものなので、学習計画書は入学後2カ月と2週間以内に提出することが必要です。）この最初の計画書は、学生、アドバイザー、ファカルティの三者間の学習契約となります。事務局への提出は、原則としてこの最初の一回のみでかまいません。

## 6-5. セミナー

「臨床基礎プログラム」では、プロセスワークの基礎理論と思想的背景を理解するだけでなく、その応用領域を各自の必要や興味に応じて体験的に理解し、その多彩な応用範囲を実践的に理解しスキルを身につけることが求められます。理論を頭で理解するだけでなく、学生が自らさまざまな分野のワークを体験し、それが個人的成長にどのようにかわるかを体感することが重要なのです。それには多くのセミナーに参加し、また自主学習を重ねていくことが必要です。

### 6-5-1 セミナーの単位

セミナーは、3時間を1単位とします。たとえば1日（6時間）のセミナーは2単位、2日間（12時間）のセミナーは4単位となります。各セミナー修了の際には「セミナー修了証」が発行されますが、それとは別に、学生自身が「学生記録」に履修を記録し、プログラム修了時に事務局に提出することが必要です。

認定プロセスワーカーが講師となるセミナーはすべて単位として数えることができますが、必修セミナーおよび選択必修セミナーは「臨床基礎プログラム」として指定されたセミナー（27ページ表1）を受講してください。

### 6-5-2 セミナーの履修方法

「臨床基礎プログラム」では、修了に必要なセミナー70単位のうち、**55単位は必修セミナー、15単位が自由選択セミナーとなります。**

必修セミナーとは、各プログラムの学習目標を達成するために必須の基礎を学ぶものです。日本プロセスワークセンターがレベル別に提供するトレーニングセミナーの一部と、プロセスワーク研究会が主催する臨床セミナーの一部がそれにあたります。

**必修セミナー**には、次の3種類があります。いずれもプロとしての実践力を伸ばすには必須のエッセンスを凝縮した重要なセミナーばかりです。

- 1) 基礎&臨床基礎プログラム共通必修セミナー
- 2) 臨床基礎プログラム必修セミナー
- 3) 臨床基礎プログラム選択必修セミナー

1)「基礎&臨床基礎プログラム共通必修セミナー」は、「基礎プログラム」でも必修となる、プロセスワークの一番の基礎を学ぶものです。プロセスワークの全体像を知り、基本的な世界観や考え方を理解するだけでなく、実際にさまざまな場面でものごとの流れを見抜き、効果的な介入を考えるための基盤となる視点やスキルの初歩を学びます。

2) 臨床基礎プログラム必修セミナーは、1)で学んだ視点やスキルを実際にさまざまな領域に応用するための基礎を学ぶものです。身体症状やムーブメント、精神障害への独自のアプローチ、関係性やグループのファシリテーションというプロセスワークの主要な応用領域それぞれに、これまでに培われてきた実践知としての独自の概念や詳細なスキルを知り、ワークの実際を体験します。これらのセミナーに参加することで、プロセスワークの主要応用領域のワークとはどんなものか、一通り理解し体験したことになります。

3) 臨床基礎プログラム選択必修セミナーは、2)で体験した領域の中でも特に学生が

興味を持った領域を選んで参加するものです。各領域の考え方や詳細なスキルをさらに体験し練習し、使いこなしていくことをめざします。

これに対して、**自由選択セミナー**は学生が自由に選べるセミナーです。必修および必修選択セミナーに指定されたセミナー以外は、すべて自由選択セミナーになります。たとえば、日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナーの入門レベルからレベル3までのうち、必修セミナー55単位の範囲では取りきれなかったセミナーのどれかを選んだり、トレーニングを少し離れて、認定プロセスワーカーがそれぞれの関心にしたがって開催するセミナーを取ったりできます。認定プロセスワーカーが主催するセミナーであれば、世界中で行われるどのセミナーに参加しても自由選択セミナーの単位に換算できます。（単位数の換算方法については、事務局までお問合せください。）

\*\*\*

必修および必修選択セミナーと自由選択セミナーの内容、単位数、該当するセミナーの一覧は、下記表1の通りです。各セミナーのレベルや内容については、次項「6-5-3 セミナーの内容：学習分野とレベル」をご覧ください。また、レベル別トレーニングセミナーの全体の詳細については、巻末資料Ⅰ「日本プロセスワークセンター主催レベル別トレーニングセミナー」をご覧ください。また、セミナースケジュールについては、日本プロセスワークセンターの年間スケジュールはウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) でご確認ください。

表1. 「臨床基礎プログラム」必修&自由選択セミナー

セミナーの種類	単位数	内容
基礎&臨床基礎 プログラム共通 必修セミナー	4 科目 17 単 位	プロセスワーク全般の基本となる考え方や用語を理解するためのセミナー。基礎プログラムでも臨床基礎プログラムでも必修です。
		該当セミナー： 入門レベル：ミニインテンシブセミナー(7 単位)。レベル1：「プロセス理論&シグナルアウェアネス」(4 単位)、「ボディワークと身体症状のワーク1」(4 単位)。レベル 3：富士見ユキオの臨床セミナー(2 単位)
臨床基礎プログラム 必修セミナー	5 科目 18 単 位	プロセスワークの各応用領域や心理臨床の重要トピックについて、それぞれの基礎を学ぶセミナー。臨床基礎プログラムの学生のみ必修です。
		該当セミナー： レベル1：ムーブメント1(4 単位)、インナーワーク1(4 単位)、変性&極限意識状態のワーク1(4 単位)、関係性のワーク1(4 単位)。レベル 3：富士見ユキオの臨床セミナー (2 単位) [「基礎&臨床基礎共通必修セミナー」と合計して 4 単位]
	5 科目 20 単 位	プロセスワークの各応用領域について、より詳細な理論や実践的スキルを学ぶセミナー。それぞれの学生の興味に従って 10 科目の中から 5 科目を選びます。

臨床基礎プログラム 選択必修セミナー		<p>該当セミナー：下記 10 科目から 5 科目を選択</p> <p>レベル1：夢のワーク1 (4 単位)</p> <p>レベル2：夢のワーク2 (4 単位)、ボディワーク&amp;身体症状のワーク2 (4 単位)、ムーブメント2 (4 単位)、インナーワーク2 (4 単位)、変性&amp;極限意識状態のワーク2 (4 単位)、関係性のワーク2 (4 単位)、ワールドワーク1 (4 単位)、ワールドワーク2 (4 単位)</p> <p>レベル3：スーパービジョンセミナー (4 単位)</p>
自由選択セミナー (選択科目)	15 単位	日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナー (入門～レベル3)、または各認定プロセスワーカーが開催する多彩な内容のセミナー (レベルフリー) から、好きなものを選択。

### 6-5-3 セミナーの内容：学習分野とレベル

プロセスワークのさまざまな応用領域は、おおまかに下記のような 10 の学習分野に分かれています。

1. プロセス理論とシグナル・アウェアネス
2. 身体症状とボディワーク
3. 夢のワーク
4. ムーブメントワーク
5. インナーワーク
6. 変性・極限意識状態とアディクションのワーク
7. 関係性のワーク
  - A) カップル・家族のワーク：カップルや家族がクライアントのワーク
  - B) 自分の葛藤のワーク：自分が当事者である葛藤をファシリテートするワーク
8. グループワークおよびワールドワーク
9. メタスキル
10. スーパービジョン

1 はすべての領域のいちばんの基盤をなす理論とスキルです。2 から 8 は、1 で学ぶ基本をさまざまな分野に応用したものであり、各分野にそれぞれの基礎をなす独自の概念やスキルがあります。特に 2 と 3 は、プロセスワークの出発点となった古典ともいべきワークです。9 は、1 から 8 の考え方やスキルをどのように使うか、使い手の態度や人としての在り方 (メタスキル) に焦点をあて、セラピスト/ファシリテーターの人的成長を見る視点を学びます。最後に 10 は、1 から 9 で学んだことを総合して学生が実際にワークを行い、スーパーバイザーから個別の指導を受ける実践練習をさし、学生一人一人が自らのスタイルや強みを見つけ、成長すべき点を自覚し、活かす方法を学びます。

1 から 8、そして 10 は、それぞれをトピックとしたセミナーで、理論を学びエクササイズを行って体験的に学んでいきます。9 の「メタスキル」は、それだけをトピックにしたセミナーの開催はほとんどありませんが、すべてのセミナーを通して重要な概念として扱われ、身につけていくものです。

●セミナーのレベル概要

日本プロセスワークセンターでは、上記の学習分野について、入門、レベル1、レベル2、レベル3まで4段階にわかれたレベル別トレーニングセミナーを提供しています。

入門からレベル2までは、プロセスワーク全般の理論的基礎から分野別の実践的応用の基礎までを段階的に学び、体験します。レベル3では、基礎を踏まえた実践力をつけることを目標とします。レベル3では、時に分野別ではなく、レベル2までに学んだ理論やスキルを横断的に総合し、プロセスワーク以外の学問的成果も含めて、実際の臨床の場にどのように生かしていくかに焦点をあてることがあります。またスーパービジョンセミナーは、レベル3ですが、初心者から上級者までが一堂に会して互いのワークから学ぶ「道場」のようなイメージで行われます。

日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナーとは別に、各認定プロセスワーカーが主催するセミナーは、トレーニングのレベルにかかわらず行われるため「レベルフリー」セミナーとされています。上記の学習分野には入っていないけれどプロセスワークの大切な要素である創造性や遊び心をトピックとしたり、プロセスワーク以外のさまざまなワークとのジョイント、また各講師のその時々に関心に沿ったセミナーなどが行われています。なお、プロセスワーク研究会が主催するセミナーは一部（富士見ユキオが講師となる「臨床セミナー」および「事例検討グループ」）が当プログラムの必修になっており、「レベルフリー」ではなく「レベル3」に該当します。

レベル別トレーニングセミナーの詳細については、巻末資料Ⅰ「日本プロセスワークセンター主催レベル別トレーニングセミナー」をご覧ください。

●「臨床基礎プログラム」のセミナー履修方法：必修と自由選択

「臨床基礎プログラム」では、各分野のレベルごとに必修および選択必修セミナーを指定しています。詳細は下の表2をご覧ください。

表2. 「臨床基礎プログラム」の各学習分野のレベル別セミナー履修方法と単位数一覧

	分野	入門	レベル1	レベル2	レベル3		
1	プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	/	4 単位 必修 プロセスワーク研究会主催臨床セミナー		
2	身体症状とボディワーク	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	選択必修：4 単位			
3	ムーブメントワーク	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	選択必修：4 単位			
4	インナーワーク	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	選択必修：4 単位			
5	変性&極限意識状態のワーク	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	選択必修：4 単位			自由選択：4 単位 [トラウマ&アディクション]
6	関係性のワーク	必修：1 単位 (M)	必修：4 単位	選択必修：4 単位			自由選択：4 単位 [自分の葛藤ワーク]

7	グループ/ワールドワーク	必修：1 単位 (MI)	選択必修：4 単位	選択必修：4 単位			
8	夢のワーク		選択必修：4 単位	選択必修：4 単位			
9	メタスキル	自由選択：4 単位（レベル3）					
10	スーパービジョン	選択必修：4 単位（レベル3）					

\* (MI)：「ミニインテンシブセミナー」。この印があるものは「ミニインテンシブセミナー」のクラスとして開催されます。

\*メタスキルは、各学習分野のセミナーでも必要に応じて学びます。

#### ・ディプロマプログラム進学を視野に入れている場合

ディプロマプログラムはプロセスワーク全般の高度なトレーニングを行うものです。日本プロセスワークセンターのディプロマプログラムでは、入学後1年でフェイズ1試験に合格できると見込めることを入学基準の一つとします。フェイズ1試験とは、プロセスワークの主要応用領域7つにおいて基礎的知識とスキルが身についていることを確認するものですが、その範囲は大変広く、レベル2までのセミナーに全領域で参加したとしても、8割程度をざっとカバーするにとどまります。

したがって、ディプロマプログラム進学を目指す場合は、臨床基礎プログラム在学中に、必修か否かを問わずすべての領域のレベル2までのセミナーにできる限り参加し、入学後に足りない分を補うという方向でお考えください。レベル2セミナーをすべて履修すると、臨床基礎プログラムとしての必修単位総数を超えることとなりますが、ディプロマプログラム入学後にはすべてディプロマプログラムの学習内容として認められます。

#### ・参加に必要な学習レベルについて

レベル別セミナーの内容は、参加者がそれ以前のレベルを履修していることを前提としていますが、理解が不十分になることを覚悟したうえで先に上級レベルに参加し、あとから基礎レベルに戻ることも可能です。ただ領域によっては、レベル2、レベル3への参加には事前にそれ以前のレベルへの参加を必須とするものもありますので、ご注意ください。

どのような学習内容がどのレベルにあたるかは、巻末の「レベル別セミナー内容」を参考にしてください。同領域、同レベルのセミナーであっても、実際に行われるセミナー内容の詳細は、講師によって、またその年によっても変わってきます。内容の詳細は、日本プロセスワークセンターの年間スケジュールカレンダーまたはウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) 「セミナー・イベント」ページをご覧ください。

参加にあたってご自分の事前の知識や経験が十分かどうかわからない場合には、各講師にお問い合わせください。

#### ・さらに学びを深めたい場合

学生が各分野についてさらに深く学びたい場合は、その希望を事務局や講師に伝えてセミナーの開催を要請したり、自らチュートリアル（学生が講師を招く形で行う少人数の勉強会）を開催することもできます。たとえば、「メタスキルに焦点をあてたセミナーを受けたい」と事務局に交渉したり、「グループワークの継続的なスーパービジョングループを立ち上げたいのでスーパーバイザーとしてきてほしい」と各認定プロセスワーカーに直接依頼したりすることができます。

さらに可能であれば、北米オレゴン州ポートランドにあるプロセスワーク研究所のセミナーやインテンシブコース、また世界各地で行われるワールドワークへの参加をお勧めします。

#### ・特定分野のセミナーに数多く参加した場合

（「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」の取得）

臨床基礎プログラムの修了時には「プロセスワーク初級セラピスト」の資格が取得できませんが、申請すれば基礎プログラム修了資格である「プロセスワーク初級プラクティショナー」も取得できます。後者は、特定の分野のセミナーを20単位以上受講した場合にその分野を専攻したことを明示する「初級プラクティショナー<〇〇専攻>」という資格にすることができます。ただし臨床基礎プログラムでは、特定の領域を20単位以上履修した場合、総履修単位数が70単位を超えることがありますのでご了承ください。詳細は、「7. 修了によって取得できる資格」の項をご覧ください。

## 6-6. 個人ワーク

個人セラピーは、スーパービジョンとともに、学生のトレーニングのうち最も重要な部分です。この過程を通じて、学生は自分自身の感情や対人関係のあり方について学び、心理的理解を深め、また精神性／霊性（スピリチュアリティ）を成長させることもできるでしょう。そして、自分自身がクライアントとして継続的にセラピーを体験することは、セラピスト・クライアント関係の理解を深め、セラピスト／ファシリテーターとしての成長に大きく寄与します。

学生は少なくとも**60回**の個人セッションを受けることが必修となります。そのうち少なくとも40回は、認定プロセスワーカーと行う必要があります。残り20回分のセラピストおよび形式は、アドバイザーの承認が得られれば、学生個人が選択することができます。ただし、「ディプロマプログラム」に進んだ場合、「ディプロマプログラム」の個人セラピー必修時間として換算されるのは、認定プロセスワーカーとのセッションのみとなります。

個人セッションの場所、料金、予約方法などはセラピストによって異なります。各セラピストに直接連絡して確認してください。

日本在住または日本語を話す認定プロセスワーカーの連絡先は、日本プロセスワークセンターのウェブサイト [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) の画面左にある「日本プロセスワークセンターについて」をクリックし、下に出てくる「認定プロセスワーカー一覧」ページをご覧ください。

## 6-7.スーパービジョン

プロセスワークで行うスーパービジョンには、ライブ・スーパービジョンとケース・スーパービジョンの2種類があります。

**ライブ・スーパービジョン**とは、スーパーバイザーの立会いのもとに、学生がセラピスト／ファシリテーター役となり、クライアント役またはグループに対してプロセスワークを実際に試みて、スーパーバイザーからフィードバックを受けることをいいます。

**ケース・スーパービジョン**とは、学生がスーパーバイザーに自分の担当しているケースについて相談し、指導を受けることをいいます。クライアント役は同席しません。

どちらの場合も、スーパーバイザーには認定プロセスワーカーを選んでください。その選定については、アドバイザーと相談することをお勧めします。

### 6-7-1 ライブ・スーパービジョン

ライブ・スーパービジョンは、**30単位**が必修です。スーパーバイザーのもとにクライアント（トライアドの仲間や学生など）を連れてきて50分または60分のスーパービジョンを受けると1単位となります。これは、技法を実際に使い学んでいくためであると同時に、学生自身の自己成長の方法でもあります。

スーパービジョンセミナーに参加し、セラピスト役として参加者の前でワークして指導を受けても1単位となりますが、この形式でのライブ・スーパービジョンは30単位のうち6単位までしか認められません。地方に住んでいたり、スーパーバイザーが海外在住のため対面でのスーパービジョンが難しい場合は、ビデオテープを送付したり、会議電話やスカイプを利用して電話やビデオチャットを使ったスーパービジョンを受けることも可能です。

ライブ・スーパービジョンは、学生のセラピストとしてのトレーニングが主眼となります。クライアント役のプロセスを完了する場ではありません。学生がスーパーバイザーからフィードバックを受け、自由に議論できる場を作るためには、セッションの途中でクライアント役に退去してもらうことが必要な場合もあります（例えば、30分ワークを行い、その後クライアント役に退去してもらって、残り30分はスーパーバイザーと学生だけで話し合うという約束を事前にしておく形式が一般的です）。

そのため、クライアント役になる方には、そのような事情を理解した上で、現われたプロセスを自分の責任として受けとめ、そこから自分自身の学びを得てくださるような心構えを持っていただくことが重要です。その方のプロセスはもちろん尊重されますが、クライアントが中心となる個人セッションと比べると、クライアント側としては満足できないセッションになる可能性が高くなります。それを了承の上で、その枠組の中で扱ってもよいと思うトピックを取り上げてください。スーパーバイザーは、できるだけクライアント役にも配慮しますが、そのポイントはセラピスト役のトレーニング、成長にあります。ライブ・スーパービジョンの場でうまく扱いきれなかったものが残ってしまい、ご自分で対処できないと思う際は、個人セッションで取り扱うなどで自己成長に役立ててください。

ライブ・スーパービジョンを始める時期やどのようにライブ・スーパービジョンと取り組んだらよいかなどは、ご自分のプロセスをよく知るセラピストとご相談ください。安全なトピックが見つからない場合は、本の中の登場人物や架空のキャラクターを演じるなどの形で、

ご自分の深いテーマを出さずに行うなどの方法があります。

プログラムの一環としてのライブ・スーパービジョンは、基本的には学生同士が相互に「セラピスト」になり、「練習」のために行われるものとお考えください。同じような学習進度にある学生 2 人がいっしょに 2 時間のスーパービジョンセッションを行い、1 時間ごとにセラピスト役とクライアント役を交代したり、数人のグループで継続的にグループスーパービジョンを行うなどの形式も可能です。どうしても学生同士ではみつからず一般の方をお願いする場合は、アドバイザーおよびスーパーバイザーの承認をとってください。

\*従来の資格プログラムでは、6時間のスーパービジョンセミナーに参加すれば1単位とし、これを3単位まで認めていましたが、当プログラムではセミナーに参加するだけでは単位になりません。また、資格プログラムではスーパービジョンクラスでセラピスト役としてワークすれば無制限に1単位と認められましたが、当プログラムではこれを6単位までと制限しています。セミナーではなく個人または少人数のセッションで、ライブ・スーパービジョンを24時間以上行ってください。

資格プログラムから当プログラムに移籍された方については、旧プログラム在籍中にすでに認められている単位についてのみ、移行可能とします。

#### 6-7-2 事例検討セミナー（グループでのケース・スーパービジョン）

各専門分野の臨床現場での実際のケースのスーパービジョンを受けることも、ライブ・スーパービジョンとともにプロセスワークを実践に活用していく上で欠かせない側面です。臨床基礎プログラムでは、認定プロセスワーカーによる事例検討セミナーへの参加**40時間**が必修となります。基本的には1回2時間、年10回を1サイクルとし、これを2サイクル、つまり2年行うこととなります。自分のケースからだけでなく他のメンバーのケースからも広く深く実践的に学ぶことができ、また長く続けることで長期的なケースのプロセスや見立てを学ぶことができます。ただ参加するだけでなく、必ず自分の担当するケースを出して指導を受けてください。

40時間のうち20時間は、個人でのケース・スーパービジョンをもって代替することができます。

#### 6-8. 学生同士による研究会（ピア・スタディ・グループ/トライアド）

プログラムに入学してすぐ行うことの一つに、ピア・スタディ・グループを組むことがあります。アドバイザーとセラピストの選定や学習計画の作成と並行して、ピア・グループの相手を探してください。ピア・グループとは、通常3人の学生で構成される少人数の勉強グループで、3人の場合トライアドと呼ばれます。プログラム在籍中は、トライアドの仲間同士で連絡を取り合い、3人グループで個人的な問題をワークしたり、実際にセラピスト役・クライアント役・スーパーバイザー役となってプロセスワークのスキルを練習したりする自主勉強会を継続して行う必要があります。このグループはまた、各人の自主学習の資料を検討したり、読書会をする場としても使えます。

ピア・グループは**プログラム修了までに最低16回**行ってください。定期的に行うことが望ましく、1年間に8回程度が目安ですが、年度内に必ず8回行わなくてもかまいません。

メンバーは、プロセスワークのトレーニングプログラムの学生同士であることが望ましいのですが、近くに他の学生がいない場合は、お住まいの地域で何かしらのサポート体制（たとえば、学生でなくてもプロセス指向心理学に興味を持つ人とピア・グループを作るなど）を作ってもかまいません。また、Eメールやファックス、電話やスカイプを使ってピア・グループを行う方法もあります。

ピア・グループの基本が3人であるのは、セラピスト役クライアント役で練習をする際に、もう一人がスーパーバイザー役としてプロセスを観察したり、あるいは二人の間に関係性のトラブルが起こった際のファシリテーター役になることができるからです。ただ、事情が許さない場合は3人でなくてもかまいません。

なお、関係性のトラブルが起こった場合は、そこでグループを解散または自然消滅させるのではなく、それを良い学びの機会として、実際の葛藤の中で関係性のワークを試みてください。グループの中で収まりがつかない場合は、認定プロセスワーカーをセラピストとしてセッションを行い、関係性のワークを実地に体験することをおすすめします。技法としてプロセスワークを学ぶだけでなく、自分たち自身についても、大きな学びが得られるはずです。

## 6-9. 自主学习

自主学习とは、文字通り学生が一人で自主的に行う学習です。**60時間**が必修です。個人セッション、スーパービジョン、セミナーへの参加、ピア・グループ以外の学習はすべて含めることができますが、かならず学習計画の目的達成に役立つものとしてください。個人ワークだけでなく、関係性、グループ、組織とのワークの理論と実践を学ぶものであれば、プロセスワークの枠組を越えて幅広く学んでいただいてもかまいません。たとえば、プログラムの参考図書リストにある文献を読むことや、ビデオ学習や、また学習計画のテーマに関連する講座やセミナーの受講などが含まれます。

自主学习の内容の詳細は、アドバイザーと相談の上決定し、学習計画に明記してください。そして、行った内容や時間数を「学生記録」に記録し、プログラム修了時に事務局に提出してください。

## 6-10. 中間考査

必要な履修単位の半数を修了したところで、学生とアドバイザーは学習の進展状況の評価を行います。この時点で、学習計画書に明記されている基本的必修項目が満たされつつあるか、今後どのような調整を行う必要があるか、といった点を検討してください。

中間考査は今までの学習を総合的に振り返り、今後の学習を計画する上で大切な機会です。計画通りにはうまく進んでいないようであれば、その理由を探ってみてください。ご自分の本当にやりたいことが学習計画に組み込まれていないのかもしれませんが。あるいは、ご自分の成長や学習の進展にともなって、入学当初の学習計画や展望の大きな修正が必要なかもしれません。学習の前半の集大成として、またその後の学習の方向を見定める機会として、ご自分のビジョンと実践の方法をしっかりと確認する機会としてください。

また、中間考査は「基礎プログラム」への移籍を検討する時期でもあります。今後の学習の

展望を検討し、そのために「基礎プログラム」への移籍が妥当であれば、その可能性を検討してください。移籍を希望する場合は、「8. プログラム間の移籍・進学」の項を参考に手続きを行ってください。

さらに中間考査は、「ディプロマプログラム」への入学を希望するかどうかを確認するよい機会でもあります。希望の有無によっては、学習計画の見直しが必要になるかも知れません。修了後の展望も踏まえて、これまでの学習内容を振り返り、今後の計画を立てることをお勧めします。

#### 6-11. 卒業小論文

「臨床基礎プログラム」の修了にあたっては、各学生が携わる臨床現場等で持っているケースについての報告をまとめた卒業小論文の提出が必要です。これは、学生がこのプログラムで学んできたことの集大成としてまとめるものです。各自のケースに関する小論文を、原稿用紙20～25枚/8000～10000字程度にまとめてアドバイザーと事務局に提出してください。

#### 6-12. プログラム修了判定

修了に必要なセミナー等の単位数と個人セラピー、ライブ・スーパービジョン、自主学習の時間数をすべて修めた段階で、学生はプログラムの修了証明(「学生記録」)を事務局に提出し、評価を受けます。その際は、まずアドバイザーと最後のアドバイザーミーティングを行い、アドバイザーからの修了についての承認状を必ず添えてください。(用紙は「巻末資料Ⅲ.基礎プログラム用紙集」にあります。アドバイザーが自由な書式で事務局に直接送付してもかまいません。)事務局は、「プロセスワーク臨床基礎プログラム」の修了要件として必修項目がすべて満たされているかどうかを査定して修了を判定します。

修了が認められると、事務局から修了証が送られます。

### 7. 修了によって取得できる資格

#### 7-1 「プロセスワーク初級セラピスト」資格

プロセスワーク臨床基礎プログラムを修了された方には、「プロセスワーク初級セラピスト」の資格が授与されます。これは、プロセスワークを心理臨床、医療、福祉、教育、司法、経営などの専門分野、臨床現場で活かすための基礎的なトレーニングを行ったことに対して与えられる資格です。

なお、この資格は日本プロセスワークセンターが認定するもので、他のいかなる団体とも連携しない、日本国内のみで認められる資格となります。

#### 7-2 「プロセスワーク初級プラクティショナー」資格

「プロセスワーク初級セラピスト」資格は、基礎プログラムの修了によって得られる「プロセスワーク初級プラクティショナー」より上位の資格です。ただ、もし臨床基礎プログラム修

了時に同時に「プロセスワーク初級プラクティショナー」資格も取得したい場合は、事務局までお申し込み下さい。

「プロセスワーク初級プラクティショナー」の資格は、プロセスワークの知識を生活や専門領域に活かしながら、豊かなライフスタイルを提案・実現できるよう、トレーニングを行ったことに対して与えられる資格です。「プロセスワーク初級セラピスト」資格と同じく日本プロセスワークセンターが認定するもので、他のいかなる団体とも連携しない、日本国内のみで認められる資格となります。

### 7-3「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」資格

「基礎プログラム」では、特定の分野を20単位以上履修して修了した場合、ご希望により「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」の資格が授与されます。「臨床基礎プログラム」でも、修了時に特定の分野を20単位以上履修されている場合には、「プロセスワーク初級プラクティショナー<〇〇専攻>」資格を証明することができます。

ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

## 8. プログラム間の移籍・進学

日本プロセスワークセンターが提供する他のプログラムから、または他のプログラムへの移籍、進学の手続きには、次の3つのパターンがあります。

1. 「臨床基礎プログラム」から「ディプロマプログラム」への進学
2. 「臨床基礎プログラム」から「基礎プログラム」への移籍、または「基礎プログラム」から「臨床基礎プログラム」への移籍
3. 「基礎プログラム」(含む「資格プログラム」)修了後の「臨床基礎プログラム」への編入

### 8-1 ディプロマプログラムへの進学

日本プロセスワークセンターの「ディプロマプログラム」は、「臨床基礎プログラム」の修了を応募要件としており、応募者がプログラムの最少催行人数5人前後に達したところで初めて開講されます。毎年開講されるものではありません。開講時期は、日本プロセスワークセンター事務局から、ウェブサイトやメーリングリストを通じて告知されます。

ただし、「ディプロマプログラム」に入学できるかどうかは、プログラムとしてプロセスワークを学ぼうとする意志的な努力と、それをサポートする夢(ドリーミング)があるかどうかの、両方にかかっています。応募者は、「臨床基礎プログラム」在学中から進学についてワークし、入学面接で最終的にそれが自らの道にかなっているかどうかを確認することになります。「臨床基礎プログラム」の修了は、「ディプロマプログラム」進学への必要要件のひとつではありますが、進学を保証するものではないことをご了承ください。

「臨床基礎プログラム」で履修した単位は、「ディプロマプログラム」に進学した際にはすべて重要な学習内容として認定されます。そのため、「ディプロマプログラム」への進学をお考えの方は、「臨床基礎プログラム」在籍中から「ディプロマプログラム」で必要な学

習内容を考慮して学習計画を作成・修正してってください。「6-3. セミナー」の項でも述べましたが、必修セミナーに入っていないグループワークおよびワールドワークも、「ディプロマプログラム」の進学を希望する場合は必修セミナーに相当します。基本的に、選択必修セミナーはすべて、「ディプロマプログラム」の前半で修めておくべき内容です。なお、これらは入学時の納入金には含まれていませんので、各セミナー申込時に個別に支払う料金になります。

入学手続きの詳細は、「ディプロマプログラム」のコースハンドブックをご覧ください。

## 8-2 「基礎プログラム」から「臨床基礎プログラム」への移籍

### 「臨床基礎プログラム」から「基礎プログラム」への移籍

両プログラム間の移籍は、プログラム在籍中1回のみ、アドバイザーの推薦を受けた上で認められます。それまでに取得された単位は、移籍後のプログラムでも有効な単位として認められます。ひとたび移籍されると、再び元のプログラムへ移籍することはできません。

#### ●移籍の時期

在籍中1回のみ、新年度開始時に

#### ●事務手数料の納入

移籍に伴う事務手数料として、¥5,000申し受けます。下記振込先までお振込みください。

- みずほ銀行           北沢支店  
                          普通口座 1137454  
                          口座名義 日本プロセスワークセンター
- ゆうちょ銀行       加入者名：日本プロセスワークセンター  
                          口座番号：10250-92891801

#### ●送付書類

下記の書類を事務局あてにお送りください。

##### 1) アドバイザーの推薦状

学生から送付しても、アドバイザーからの直接送付でもかまいません。アドバイザーから直接事務局に送られる場合は、他の書類を事務局に送られる際にその旨をお書き添えください。

##### 2) 小論文

なぜ「臨床基礎プログラム」へ、または「基礎プログラム」への移籍を希望するに至ったかについて、A4用紙で1枚程度、1300字程度にまとめてください。

##### 3) 振込明細書のコピー

\* 1)、2) はできる限り Eメールに添付ファイルでお送りください。(郵送、ファックスでも可)

\* 3) はファックスか郵送でお送りください。スキャナーでコピーしたものをEメールに添付していただいてもかまいません。

### 8-3「基礎プログラム」(および旧資格プログラム)修了後の「臨床基礎プログラム」への編入

「基礎プログラム」を修了後、「臨床基礎プログラム」への編入を希望する場合は、プログラム在籍時のアドバイザーまたはセラピストとセッションを行い、「臨床基礎プログラム」への編入がご自分のプロセスにかなうかどうかをしっかりと確認された上、下記の通りお手続きください。旧「資格プログラム」を修了された方のお手続きも同様です。

「基礎プログラム」および旧「資格プログラム」で取得した単位は、すべて「臨床基礎プログラム」の単位として認められます。

また、旧「資格プログラム」修了後にミニインテンシブセミナーに参加されて「プロセスワーク初級プラクティショナー」資格を取得された方は、そのミニインテンシブセミナーの単位も「臨床基礎プログラム」で認められます。

#### ●編入の時期

編入日：4月1日、10月1日

編入申込締切：

送付書類締切日：2月10日、8月10日

納付金の振込明細書の送付締切日：2月末日、8月31日

#### ●送付書類

下記の書類を事務局あてにお送りください。

##### 1) アドバイザーの推薦状

学生から送付しても、アドバイザーからの直接送付でもかまいません。アドバイザーから直接事務局に送られる場合は、その旨お書き添えください。

##### 2) 小論文

なぜ「臨床基礎プログラム」への編入を希望するに至ったかについて、A4用紙で1枚程度、1300字程度にまとめてください。

##### 3) 修了したプログラムの「学生記録」

\*旧「資格プログラム」修了後にミニインテンシブセミナーに参加して「プロセスワーク初級プラクティショナー」資格を取得された方は、資格授与証またはミニインテンシブセミナー修了証のコピーもお送りください。

\*1)、2)はできる限りEメールに添付ファイルでお送りください。

(郵送、ファックスでも可)

\*3)は、修得単位確認後、返却いたします。

#### ●納付金の納入

年間学生登録料、アドバイザーミーティング初年度分、不足分必修単位分セミナー料金の総計(「9. プログラム履修費用」の項参照)を、下記振込先まで納入してください。

不足分の必修単位の査定と納付金額の確定は、上記送付書類に基づいて事務局が

行います。送付書類締切日までに、必ず修了したプログラムの「学生記録」をお送りください。事務局から折り返し納付金額をお知らせします。その金額を下記口座にお振り込みください。

- みずほ銀行 北沢支店  
普通口座 1137454  
口座名義 日本プロセスワークセンター
- ゆうちょ銀行 加入者名：日本プロセスワークセンター  
口座番号：10250-92891801

また納付金の振込明細書の送付締切日までに、振込明細書のコピーを、ファックスか郵送、またはスキャナーでコピーしたものをEメールに添付し、事務局までお送りください。

## 9. プログラム履修費用

2009年度の価格を基本とした一括納入費用および個人セラピーなどの概算費用は下記の通りです。この費用は変わることがあります。

### 9-1 年度開始時の一括納入費用

	年間登録料	アドバイザー ミーティング料	必修セミナー 参加費	計
入学時納入金	¥50,000	¥40,000	¥225,000	¥315,000
2年度開始時	¥50,000	¥40,000	¥135,000	¥225,000
3年度以降	¥50,000	¥40,000	¥0	¥90,000

<内訳>

#### 1. 入学初年度納入金：315,000円

- 年間学生登録料：50,000円
- アドバイザーミーティング料初年度（4回分）：40,000円
- 必修セミナー参加費：225,000円
  - ミニインテンシブ（7科目） 63,000円
  - プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス 27,000円
  - ボディワークと身体症状のワークI 27,000円
  - ムーブメントワークI 27,000円
  - インナーワークI 27,000円
  - 変性&極限意識状態のワークI 27,000円

関係性のワークI 27,000円

(富士見ユキオのセミナーは別途プロセスワーク研究会にお支払いください)

\*入学前1年間に上記必修セミナーに参加されている場合は、初年度納入金からその参加費(上記の学生割引料金)分を差し引いた額を納付していただきます。納入金額を確定するには、参加セミナー名と参加した年月日を明記して、事務局までお問い合わせください。折り返し金額を確定してお知らせいたします。入学申込締切日に間に合うよう、締切日の前に3週間の余裕を持ってお問い合わせください。

## 2. 2年度納入金：225,000円

- 年間学生登録料：50,000円
- アドバイザーミーティング料2年度(4回分)：40,000円
- 選択必修セミナー参加費：135,000円  
選択する5つのセミナー 各27,000円

\*入学前1年間に選択必修セミナーに該当するセミナーに参加し、単位にカウントしたい場合は、2年度納入金からその参加費(上記の学生割引料金)分を差し引いた額を納付していただきます。納入金額を確定するには、参加セミナー名と参加した年月日を明記して、事務局までお問い合わせください。折り返し金額を確定してお知らせ致します。2年度納入金の納付締め切りに間に合うよう、締切日の前2,3週間の余裕を持ってお問い合わせください。

## 3. 3年度以降納付金：90,000円

- 年間登録料：50,000円
- アドバイザーミーティング料3年度(4回分)：40,000円

### 9-2 個別に支払う費用

1. 個人セラピー：60回/600,000円～1,260,000円  
個人セラピー費用1回10,000円～21,000円  
\*個人セラピーや各種スーパービジョンを受ける際にセッションごとにかかる費用です。セラピストによって料金が異なります。
2. 個人スーパービジョン：30回/300,000円～630,000円  
\*30回のうち6回まではセミナーでのオープンシートで代替可能です。
3. 自由選択セミナー：最低15単位(45時間分)  
セミナー1回(12時間)：27,000円～80,000円
4. プロセスワーク研究会主催臨床セミナー(講師：富士見ユキオ)  
セミナー1回(6時間)：21,000円など
5. プロセスワーク研究会主催事例検討グループ(講師：富士見ユキオ)  
セミナー10回(20時間)：136,000円～

- 前納したセミナー参加費は、日程が合わず年度内に参加できない場合、次年度以降に繰り越し可能です。修了までにすべて履修すればよいものとします。
- 前納したアドバイザーミーティング料については、次年度への繰り越しができないものとします。年度内に4回行ってください。前納したものの未消化のアドバイザーミーティング料については、ご返金いたしませんので、ご了承ください。
- アドバイザーによっては、所定のアドバイザーミーティング料以上のセッション料金がかかる場合があります。アドバイザー選定前に各アドバイザーに確認してください。また、差額の支払いについては事務局までご相談ください。
- ワークスタディ制度：セミナー開催のお手伝いなどをさせていただくことによって、セミナー参加費を割引くワークスタディ制度を設けます。人数に限りがありますので、セミナー開催日の2ヶ月前までに事務局までお申し出ください。また、必修セミナーをこの制度によって履修されたい場合には、年度初め（セミナー参加費納入前）に事務局までご相談ください。
- プロセスワーク研究会主催セミナー（講師：富士見ユキオ）の参加費は、受講時に講師に直接お支払いください。

## 10. スカラシップ

プロセスワークのトレーニングは、その人の性別、人種、年齢、収入にかかわらず出来るだけ多くの人に開かれており、トレーニングを始める鍵となるのはその人のドリーミング・プロセスでなければならないと当センターでは考えます。そのため、私たちはささやかながら「ワークスタディ制度」のようなスカラシップを設けています。学生は、経済援助を必要とする状況に応じて、セミナー等についてスカラシップの適用を相談することができます。その内容は申請する個人の経済状況などによって決定されます。当センター主催セミナーについてワークスタディを希望される方は、事務局までご相談ください。

また、認定プロセスワーカーによっては、セッション料金を学割を設けたり、スライディングスケール(クライアントの収入によってセッション料を決定する方式)を設ける場合もあります。

## 11. 学生登録料

学生登録料は、1年間の学籍を維持するために必要なものです。その年度に納入された学生登録料で学籍を維持できる期間は、4月1日入学の場合は翌年3月31日まで、10月1日入学の場合には翌年9月30日までです。学生登録料を滞納されると、この期間に受講されたセミナーや受けられたセッション、スーパービジョンを単位とすることができなくなります。

また、年間学生登録料を滞納されると、プログラムでの学習継続の意思がないものと判断し、4月入学の場合1年後の3月31日、10月入学の場合1年後の9月30日をもって自動的に退学とさせていただきますので、ご了承ください。継続の意思はあるものの、何かしらのご事情がある場合は、事務局までご遠慮なくご相談ください。

## 12. 休学

「臨床基礎プログラム」には休学制度があります。休学期間は1年間で、何回でも更新ができます。4月入学の方は休学手続きされた年の4月1日から翌年の3月31日、10月入学の方は翌年の9月30日までが1年の休学期間となり、中途からの休学は認められません。

休学期間中に受けられたセッションやセミナーは、プログラム修了に必要な単位数としては認められません。(ただし、参加費の学生割引は適用されます。)休学前に取得した単位は、復学後にそのまま認められます。

休学される場合は、休学届とアドバイザーからの休学承認書の2通を事務局に提出し、休学中の年間学生登録料5,000円を納入してください。休学届と休学承認書の用紙は、巻末資料Ⅲにあります。なお、メール等で非公式に休学的意思表示をされても、休学届およびアドバイザーの休学承認書の提出と休学中の年間登録料¥5,000のお支払いが完了しない限り、休学扱いになりませんのでご注意ください。

なんらかの事情で休学を希望される場合は、まずアドバイザーと相談し、休学がご自分の学習のプロセスの中でどのような意味を持つかについてワークすることをお勧めします。

## 13. 復学

休学期間を終えて復学する際には、復学届とアドバイザーからの復学承認書の2通を事務局に提出し、新年度の年間学生登録料50,000円と必要な納付金を納入してください。復学届と復学承認書の用紙は、巻末資料Ⅲにあります。

休学した年度が終わらないうちに復学し、その年度に行ったセッションやセミナーを単位として換算したい場合は、すでに納入された5,000円に加えて通常の年間学生登録料との差額45,000円を納入してください。セミナー参加費などの納付金の前納も必要となります。

メール等で非公式に休学的意思表示をされても、復学届およびアドバイザーの復学承認書の提出と必要なお支払いが完了しない限り、復学扱いになりませんのでご注意ください。

復学の際も、アドバイザーと相談し、休学期間中に起こったことや、復学自体がご自分の学習プロセスにどのような意味を持つかについてワークすることをお勧めします。

## 14. 退学

なんらかの事情で退学をお考えの場合は、まずアドバイザーと相談し、退学がご自分にとって本当に正しい道かどうかをワークすることをお勧めします。その上で退学届とアドバイザーからの退学承認書の2通を事務局に提出してください。退学届と退学承認書の用紙は、巻末資料Ⅲにあります。メール等で非公式に退学的意思表示をされても、退学届およびアドバイザーの退学承認書の提出(および未払い分がある場合は必要なお支払い)が完了しない限り、退学扱いになりませんのでご注意ください。

一度退学されてから再度入学を希望する場合は、初めての場合同じように入學についての

ドリーミングについてワークする個人セッションを認定プロセスワーカーと行ってください。  
退学前に取得された単位は認められません。

なお、年間学生登録料を滞納されると、プログラムでの学習継続の意思がないものと判断し、4月入学の場合1年後の3月31日、10月入学の場合1年後の9月30日をもって自動的に退学とさせていただきますので、ご了承ください。継続の意思はあるものの、何かしらのご事情がある場合は、事務局までご遠慮なくご相談ください。

## 15. 学生担当

アドバイザーやセラピストとの葛藤がもとになって休学や退学を考えられるようになった場合、あるいは何らかの事情で学生としてプログラムを進めることが難しくなった場合、プログラムに対して意見がある場合などは、どうか学生担当までご相談ください。学生担当は、ファカルティのうち2名が担当し、学生の立場に寄り添いつつ、問題の解決をサポートします。とくにアドバイザーやセラピストとの葛藤の場合は、そのプロセスが双方の大切な学びの一環となることを目指してファシリテートします。学生担当の二人のうちどちらかと葛藤がある場合は、もう一方にご連絡ください。

2011年4月現在、学生担当は桑原香苗と坂本仁美です。

下記メールアドレスまで直接ご連絡ください。

桑原香苗	kanaekw@gmail.com
坂本仁美	hitomi@innerawareness.org

## 16. 倫理委員会

学生担当のレベルでも解決に至らない葛藤や問題は、倫理委員会に訴えることができます。倫理委員会は、ファカルティ二人の内部委員と、日本プロセスワークセンターに所属しない有識者二人の外部委員から構成されます。倫理委員会、とくに外部委員は、公正な立場に立って問題を調査、判断し、勧告を行います。倫理委員の誰かとトラブルがある場合は、その委員はその件についての倫理委員会の活動からはずれます。

## 17. 問い合わせ及び連絡先

「基礎プログラム」、「臨床基礎プログラム」、「ディプロマプログラム」についてのお問い合わせは、お気軽に下記までご連絡ください。

連絡先： 日本プロセスワークセンター事務局  
Email: info@jpwc.jp  
電話/FAX：03-3485-4208

(電話受付は毎週金曜 10:00~13:00、14:00~17:00 のみ)

Website: <http://www.jpwc.jp>

住所：〒156-0041 東京都世田谷区大原1-3-1 1

## 18. 振込先

各種のお振込は、下記までお願いいたします。

- みずほ銀行 北沢支店  
普通口座 1137454  
口座名義 日本プロセスワークセンター
- ゆうちょ銀行 加入者名：日本プロセスワークセンター  
口座番号：10250-92891801

巻末資料 I  
2010 年度日本プロセスワークセンター主催  
レベル別トレーニングセミナーのご案内  
(2010/04/01 現在)

日本プロセスワークセンターでは、プロセスワークに興味をお持ちの方のさまざまなニーズにお応えするために、またプロセスワークを入門から上級まで幅広く体系的に学んで頂くために、多彩なトレーニングセミナーを開催しています。

ここでは、その内容を下記のような順序でご説明していきます。

\*\*\*\*\*

- 1) 日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナーの特徴
- 2) 開催されるセミナーの種類と名称
- 3) セミナーの開催形式
- 4) レベル別学習内容
  - A. 入門レベル
  - B. レベル1
  - C. レベル2
  - D. レベル3
  - E. レベルフリー
- 5) レベル別セミナーの使い方
- 6) セミナー修了証の発行

\*\*\*\*\*

### 1) 日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナーの特徴

日本プロセスワークセンター主催のトレーニングセミナーは、次のような特徴を持っています。

- **基礎から上級の応用まで一貫して学べるレベル別セミナー**  
プロセスワークの多彩な応用領域を7つに分け、各領域のいちばんの基礎を「入門レベル」でご紹介します。その領域をさらに学びたい方は、「レベル1」「レベル2」にお進みください。その基礎の上で、さらに自分自身の実践力を磨くスーパービジョンセミナーなどが「レベル3」です。そして、プロセスワークは初めてという方から上級者まで広く楽しんで頂けるセミナーを「レベルフリー」としました。
- **知識と体験をバランスよく組み合わせたセミナー内容**  
プロセスワークは、体験を深め、気づきをうながすことで、起こるべき変容をサポートしていくアプローチです。これを身につけるには、知識を頭で理解することと、実際にくりかえし体験して理解を深めていくことの両方が必要とされます。そのため、どのセミナーも、レクチャーとデモンストレーション、エクササイズをバランスよく組み合わせ、参加者自らが体験を通して学べる構成になっています。

- **年間セミナースケジュール**

入門からレベル 3 までのセミナーを、毎年繰り返し行います。今年取りそこねたセミナーも、翌年にとることができ、プロセスワークのどの領域でも 2, 3 年のうちに基礎をしっかりと学ぶことができます。

毎年、新年度開始前に、1 年間（4 月から翌年 3 月まで）のセミナースケジュールを発表しますので、早くからご自分のスケジュール調整をして頂けます。

年間セミナースケジュールの詳細は、日本プロセスワークセンターの各年度のパンフレットやホームページ [www.jpwc.jp](http://www.jpwc.jp) でご覧いただけます。日本プロセスワークセンターの一般向けメーリングリスト [jpwc-news](mailto:jpwc-news) および学生向けメーリングリスト [jpwc-CpDp](mailto:jpwc-CpDp) でも開催情報を随時お届けします。あるいは、いつでもお気軽に日本プロセスワークセンター事務局 [info@jpwc.jp](mailto:info@jpwc.jp) までお問合せください。

\* 一般向けメーリングリスト [jpwc-news](mailto:jpwc-news) に参加をご希望の方は、日本プロセスワークセンター事務局 [info@jpwc.jp](mailto:info@jpwc.jp) まで登録希望をお伝えください。

\* プログラムの学生の方はすべて事務局が学生向けメーリングリスト [jpwc-CpDp](mailto:jpwc-CpDp) に登録します。プログラムを修了されると、とくにお申し出のない限り、[jpwc-news](mailto:jpwc-news) に移行させていただきます。

なお、日本プロセスワークセンターのトレーニングプログラムで必修となるレベル 3 のセミナーには、プロセスワーク研究会主催のセミナーや事例検討グループが含まれます。そのため、以下ではプロセスワーク研究会主催セミナーも含めてご説明していきます。

## 2) 開催されるセミナーの種類と名称

各レベルに該当するセミナーは下表の通りです。

表 1. 日本プロセスワークセンター主催トレーニングセミナーのレベル分けと名称

レベル	該当セミナー
入門	ミニインテンシブセミナー（7 科目）、プロセスワーク体験 1 日セミナー
レベル 1	プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス、ボディワーク 1、ムーブメント 1、インナーワーク 1、変性&極限意識状態のワーク 1、関係性のワーク 1、ワールドワーク 1、夢のワーク 1
レベル 2	ボディワーク 2、ムーブメント 2、インナーワーク 2、変性&極限意識状態のワーク 2、関係性のワーク 2、ワールドワーク 2、夢のワーク 2
レベル 3	ミニインテンシブ・スーパービジョンセミナー（7 科目）、メタスキル、関係性のワークレベル 3（自分の葛藤のワーク）、各種スーパービジョンセミナー

	*プロセスワーク研究会主催の臨床セミナーおよび事例検討グループ（講師：富士見ユキオ）はレベル3に該当します。
レベルフリー	海外の講師を招いてのセミナーなど *日本プロセスワークセンターとは別に、各認定プロセスワーカーが自由に企画・主催するセミナーはこのレベルに該当します。

### 3) セミナーの開催形式

- 入門レベル

「ミニインテンシブセミナー」は、3時間のクラスを7つ、計21時間を、3日間で開催します。

「プロセスワーク体験1日セミナー」は、休日1日を使った6時間のセミナーです。

- レベル1、2、3およびレベルフリー

基本的には12時間のセミナーをひとまとまりとし、週末2日間（1日6時間×2日）で行います。また休日1日のセミナーや、連休を利用した数日間のセミナー、平日夜に2、3時間のクラスを数回シリーズで行う形もあります。

事例検討グループは、平日夜1回2時間のクラスの10回シリーズを1サイクルとします。

### 4) レベル別学習内容

入門からレベルフリーまでの各レベルについて、概要と目標、主な学習内容をまとめました。各学習分野でどのような項目を学ぶのかの大枠として、参考にしてください。

#### A. 入門レベル

- 概要

プロセスワークは初めて、またはあまりよく知らないという方をどなたでも歓迎します。本で読んだだけではわかりにくいプロセスワークですが、実際にはどんなものか、どんな人がどんなことをするものなのか、ちょっと味見をする機会です。

- 目標

1. プロセスワークとはどのようなものか、全体像をおおまかに把握します。
2. プロセスワークの最も基本となる考え方や概念、スキルの初歩を学び、エクササイズを通してそれを体験してみます。

- 学習内容

「ミニインテンシブセミナー」では、プロセスワークの基礎理論1クラスと主な応用領域の初歩となる6クラスの計7クラスを、各3時間ずつ、計21時間で集中的に学びます。各領域の大枠と初歩のスキルや考え方を学び、エクササイズで体験します。レベル1の学習内容となるテーマのうち一つを取り上げて、“初めの一歩”を体験してみることもあります。3

日間でプロセスワークの全体像が一気につかめます。

なお、レベル3となる「ミニインテンシブ・スーパービジョンセミナー」と同時に同会場で開催されるため、プロセスワークを学ぶさまざまな人たちと出会う機会でもあり、とくにトレーニングプログラムの学生の方には先輩たちと情報交換をする良い機会となります。

「プロセスワーク体験1日セミナー」では、各領域に分かれる前の、プロセスワーク全般の基盤となる考え方やスキルを学び、ものごとの流れを見通す新しい視点を体験していきます。

セミナーの名称	セミナーの概要（学習内容はレベル1を参照）
ミニ インテンシブ セミナー	主要7分野（プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス、インナーワーク、ボディワーク、ムーブメントワーク、変性&極限意識状態のワーク、関係性のワーク、グループワーク/ワールドワーク）の初歩を3日間で一気に学ぶ。プロセスワークの全体像をつかむと同時に、複数の講師を体験でき、同じ理論やスキルでも使う人によって変わってくる「メタスキル」も体感できる。 基礎&臨床基礎プログラム共通必修セミナー
プロセスワーク 体験 1日セミナー	プロセスワーク全般の基礎を1日にまとめたセミナー。プロセスワークの基本的な考え方やスキルをレクチャーとエクササイズ、ケース検討などを通して学ぶ。

## B. レベル1

### •概要

プロセスワークを生活や仕事に生かすための基礎をしっかりと学び、実践力をつけたいという方ならどなたでも歓迎します。自分自身の成長のために学びたい方から、心理療法や精神医療、福祉、教育、司法などの対人援助職、コーチングや組織開発など企業組織や集団を扱う専門職の現場にプロセスワークを応用したい方まで、幅広くお役に立つセミナーです。下記の8つの領域で開催されます。

- ①・プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス
- ②・夢のワーク
- ③・インナーワーク
- ④・身体症状とボディワーク
- ⑤・ムーブメントワーク
- ⑥・変性&極限意識状態のワーク
- ⑦・関係性のワーク
- ⑧・ワールドワーク/グループファシリテーション

### •目標

1. 「プロセス理論とシグナルアウェアネス」セミナーにおいて、プロセスワークを実践する上でもっとも基本となる考え方や概念、スキルの初歩、またシグナルに気づいてプロセス構造を見立てる力（シグナルアウェアネス）とは何かを学びます。
2. 1で学んだ基礎がさまざまな領域でどのように応用されるか、また各領域ごとの独自の概念やスキルおよびメタスキルの初歩を理解し、エクササイズを通して体験的に学びます。

•学習内容

レベル1のセミナーのうち、「プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス」は、プロセスワークを使って実際に自分自身に向きあい、人とかかわる場合にあらゆるワークの基礎となるものです。そのため、入門およびレベル1のみに設定されています。どの領域についての学びを深める場合でも、このセミナーで基礎を固めることをお勧めします。プロセスワークを使う力を身につけたいという方は、まずこちらに参加されることをお勧めします。レベル1の他のセミナーでは、主要応用領域の7分野について、その基礎を学んでいきます。それぞれの分野に特有の考え方やスキルも多く、1回のセミナーでは下記のすべてを網羅することができません。また、ひとたび頭で理解しても、実際に使えるようになるまでには、何度も繰り返し体験し練習することが重要です。その分野をしっかりと身につけたい場合は、同じ分野のセミナーに何度もくりかえし参加したり、チュートリアル\*を行うなどして、下記の範囲の全体をカバーすることをおすすめします。

\*チュートリアル：学生が自分たちの興味関心に従って自由に企画し、認定プロセスワーカーや先輩学生などに個人的に依頼して行う勉強会。

セミナーの名称	学習内容
プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス	次のような概念や考え方について学び、ビデオ分析などを通してシグナルとは何か、どうとらえるかを学びます： プロセス構造（一次&二次プロセス、エッジ、パート、チャンネル）、シグナルとダブルシグナル、介入とフィードバック、ドリーミング、ディープデモクラシー、3つの現実レベル（合意された現実、ドリームランド、エッセンス/センシエント）、メタスキル、アウェアネス、目的論、「問題の中に答えがある」などの考え方。 基礎&臨床基礎プログラム共通必修セミナー
夢のワーク1	プロセスワークでの夢の扱い方を次のような概念を中心に学びます： 夢のプロセス構造、ドリームフィギュア、ドリームボディ（身体との関わり）、子供のころの夢/「人生の神話」、ドリームワークのメタスキル 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
インナーワーク1	プロセスワークの「インナーワーク」とは何か、それがセラピーやグループファシリテーションにどうつながるかを実践的に学びます。瞑想などプロセスワーク以外のインナーワークの方法も参照します： 声に出してインナーワークを行う方法。自分のプロセス構造を見立て、様々なチャンネルを使って展開し、エッジに気付くところまでの実践。 （できればエッジを越えて二次プロセスを深く体験し、あるいはエッジワークをし、そのアウェアネスを現実に応用できるところまで） 臨床基礎プログラム必修セミナー
ボディワーク1	プロセスワークの出発点となった身体症状のワークを始め、身体感覚

	<p>にかかわる考え方や技法を学びます：          身体症状のワーク、ドリームボディ（さまざまな身体のレベル：犠牲者／ふだんの自分、症状の作り手／ドリームボディ、神話的身体、不死の身体）、さまざまな手技やコマワークの紹介          基礎&amp;臨床基礎プログラム共通必修セミナー</p>
ムーブメントワーク1	<p>プロセスワークの特徴の一つであり、すべてのワークに使われるムーブメントワークの初歩を、次のような概念を中心に学びます。またムーブメントセラピーの視点やさまざまな技法を知り、自分自身の体の動きに親しんでいきます：          動きのプロセス構造（姿勢や周囲の環境からプロセスを見立てる視点）、動きのシグナル（特にダブルシグナル）の見つけ方と介入法          臨床基礎プログラム必修セミナー</p>
変性&極限意識状態のワーク1	<p>「変性意識状態」「極限意識状態」という考え方を始めとするプロセスワーク独特の概念（メタコミュニケーター、フィードバックループ、明晰性、シティシャドウ）などを理解すると同時に、自分自身のさまざまな意識状態に親しみ、また社会や文化と意識状態の関わりについて考えていきます。精神医学との関連についても学びます。          臨床基礎プログラム必修セミナー</p>
関係性のワーク1	<p>プロセスワークにおける「関係性」という語の3つの意味（①関係性のチャンネル、②カップル／家族ワーク、③自分の葛藤のワーク）を整理した上で、次のような概念について学びます：          関係性のチャンネルについて：その特性、ドリーミングアップと投影。          カップルワークについて：3つのレベル（個人の内面、コミュニケーション、フィールド）と各介入法、ムード（雰囲気／気分）、ハイ&amp;ロードリーム、ランクとシグナル、セクシュアリティや親密さ          臨床基礎プログラム必修セミナー</p>
グループワーク／ワールドワーク1	<p>グループプロセス（中でもグローバルな問題を扱うものをワールドワークと呼びます）について、次のような項目を中心に基礎を学びます；          グループプロセスの手順、ロール、ゴーストロール、エッジ、ホットスポット、ロールプレイとロールスイッチ、ランクと特権、ディープデモクラシー、プロセスワークのファシリテーションの特徴、オープンフォーラム          臨床基礎プログラム選択必修セミナー</p>

## C. レベル2

### •概要

レベル2では、レベル1で学んだ基礎をふまえて、やや上級の知識やスキルを学び、見立てや介入の実技練習を通して実践力をつけることを重視します。レベル1のセミナーでは伝えきれない詳細な理論やスキルの実際などもお伝えします。また、プロセスワークの理論的背景や周辺領域とのかかわりを学び、プロセスワークとは何かを総合的に理解することをめざ

します。

レベル 1 と同じく、プロセスワークを生活や仕事に生かすための基礎をしっかりと学び、実践力をつけたい方ならどなたでも歓迎します。特に、その領域を深く理解したい、自分の生活に真剣に生かしたい、専門職の現場に使えるだけの幅広い理解力や実践力をつけたいとお思いの方を対象とします。

#### •目標

- 1.各学習分野において、ディプロマプログラムのフェイズ 1 試験で問われるレベルの理論や知識の概略を理解することをめざします。
- 2.各学習分野において、プロセス構造を見立て、レベル 1 で学んだ概念やスキルをもとに展開を始められるところまでの実践力を高め、メタスキルを育てます。

#### •学習内容

レベル 1 の開催領域から「プロセスワーク理論とシグナルアウェアネス」をのぞいた 7 つの領域で開催されます。

レベル 2 でお伝えする内容は、ディプロマプログラムのフェイズ 1 試験の範囲に準じています。フェイズ 1 試験とは、プロセスワークの専門家として必要な理論的理解があるか、実践の初歩が身についているかを問うものです。その範囲をカバーすれば、プロセスワークの基礎理論が理解されているという目安になります。

その目安とは、大まかにまとめると下記のようなものです。

- ・各学習分野の基礎理論や概念全般について、自分の言葉で説明できる
- ・セラピスト役としてワークし、プロセスを見立てて介入方法を考え、展開を始めて、フィードバックを見ることが出来る（プロセスを深めて最後まで完了させることは求められません）

実際には、広範なフェイズ 1 試験の範囲を 1, 2 回のセミナーですべてお伝えすることは難しく、セミナーでは概念の紹介にとどまることが多々あります。そこからさらに深く理解し身につけるには、学生それぞれが自主的にグループでのチュートリアルを企画したり、スーパービジョンや個人セッションで体験を通して学んでいくことが必要になります。フェイズ 1 試験の詳細は、ディプロマプログラムのコースハンドブック巻末にありますので、興味のある方はご参照ください。

セミナーの名称	学習内容
夢のワーク 2	夢のプロセス構造の見立てとかんたんな展開の実践。子供のころの夢と人生の神話などを深めるための実践的なワークスキル。他の流派の夢のワークとの比較。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
インナーワーク 2	自分のプロセス構造を見立て、さまざまなチャンネルを使って展開し、エッジを越えて二次プロセスを深く体験し、またはエッジワークを行い、そこで得られた気づきを現実に戻すまでの流れの体験的理解。エッジに気づき、できれば越えようとするところまでの実践。Spiritual warrior の考え方。臨床や対人関係でのドリーミングアップの使い方。

	グループ/ワールドワークのファシリテーションや自分の葛藤解決への応用。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
ボディワーク2	身体症状のワークの見立てと実践。さまざまな手技、ディープボディワーク、コマワークの紹介・実践。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
ムーブメントワーク2	動きのプロセスを実際に見立て、簡単な展開ができるところまでの実践。ラバンの見立て法、さまざまな介入法の詳細と実践練習、それらを通して自分自身の身体や動きと親しむこと。ダンスセラピーなどプロセスワーク以外のさまざまなムーブメントセラピーの理解と体験。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
変性&極限意識状態のワーク2	さまざまな介入法の理解と、ごく簡単な実践練習。うつや嗜癖/依存症についてのプロセスワーク独自のとらえ方（一次&二次のうつ、軽い慢性のうつ、アディクションのワーク）、二つの意識状態についての倫理、コマワーク（昏睡を含めた意識障害）や死に瀕した人とのワークの紹介。精神医学（DSM など）、他の臨床心理学、シャーマニズム（カスタネダ）との関連の理解。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
関係性のワーク2	カップル/家族ワーク： レベル1で学んだ概念の理解を深め、それらを使ったワークの実践練習。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー
グループワーク/ワールドワーク2	レベル1で学んだ重要概念の理解を深め、また他の学習分野の学習がグループワークにどのように生かされるかを総合して実践練習を行い、グループプロセスの見立てやさまざまな介入法の詳細な実践的スキルを学ぶ。またプロセスワーク以外の葛藤解決の方法やファシリテーション法とのつながりを知る。 臨床基礎プログラム選択必修セミナー

#### D. レベル3

##### • 概要

プロセスワークを専門職の現場で使うことに関連するさまざまなトピックで開催されます。心理臨床や医療福祉、教育、司法、組織開発などの専門領域で実際にプロセスワークを使う際の詳細なスキルや考え方を学びます。スーパービジョンセミナーでは、参加者それぞれに合わせて、独自のスタイルを見つけ、長所をさらに伸ばす実践力をつけるトレーニングを行います。

##### • 目標

1. 専門領域へのプロセスワークの実践的応用を、スーパービジョンや事例検討グループを通して学ぶ。
2. 学生一人一人が自分自身のスタイルやメタスキルを自覚し、磨いていく。

3. 心理臨床や精神医学など人と深くかかわる専門領域をプロセスワーク以外の理論や流派もまじえて幅広く学び、臨床家としての力を養う。

• **開催の形式**

「臨床セミナー」と「事例検討グループ」は、日本プロセスワークセンター主催ではなく、「プロセスワーク研究会」が主催するものです。

日本プロセスワークセンターで主催するレベル3のセミナーは、「ミニインテンシブセミナー」と同時に同会場で開催される「ミニインテンシブ・スーパービジョンセミナー」になります。

• **学習内容**

「臨床セミナー」は、日本にプロセスワークを紹介し臨床心理の分野で高い評価を得ている富士見ユキオが講師となり、臨床の重要トピックを取り上げて行う、1日～数日間のセミナーです。「事例検討グループ」は、限定されたメンバーで継続的に富士見がケース・スーパービジョンを行う連続クラスです。

「スーパービジョンセミナー」は、ケース・スーパービジョンとライブ・スーパービジョンの両方を行う場で（どちらかだけの場合もあります）、1～3日間で集中して行われます。他のセミナーと大きく違うのは、理論を伝えることよりも、「いまここ」で起きているプロセスをどう見抜くかが重視され、まさに場に即してリアルに学べること、そして各参加者がセラピストとして成長できることです。とくに「ミニインテンシブ・スーパービジョンセミナー」は、3日間で集中して7つの応用領域のライブ・スーパービジョンを行うため、参加者それぞれに総合的実践力が高まり、また深い変容が起こる場になります。

セミナーの名称	学習内容
臨床セミナー	プロセスワークを含めて臨床心理学や精神医学、文化人類学などの広い視野から講師がその時々に関心のあるトピックを語り、ワークを行うセミナーです。毎月1回程度行われます。 基礎（2単位）&臨床基礎プログラム（4単位）共通必修セミナー
事例検討グループ	限定されたメンバーで継続的なグループを形成し、スーパーバイザーのもとで各自のケースを発表・検討して実践的な学びを深めるケース・スーパービジョンのクラスです。連続10回のクラスを1サイクルとするため、短期の見立てや指導のみならず長期的な見立てやプロセスの流れを学ぶことができます。 臨床基礎プログラム必修
スーパービジョンセミナー	スーパーバイザーの講師の立会いのもとで参加者同士がセラピスト役、クライアント役となってワークを行い、その場で指導を受けるライブ・スーパービジョンと、参加者がケースを提示して指導を受けるケース・スーパービジョンがあります。前者ではきめ細かく参加者一人一人のスタイルに合ったフィードバックが受けられ、後者では大きく俯瞰した視野からの指導が受けやすくなります。

	臨床基礎プログラム選択必修セミナー
関係性のワーク3	関係性のワークの上級編には自分が当事者である葛藤を自らファシリテートする「自分の葛藤のワーク」があります。関係性のワークで学ぶあらゆる視点やスキルを自分自身の葛藤状況下でも使えるよう、アウェアネスを保つための考え方やインナーワーク、spiritual warriorの視点、ワールドワーク（葛藤ファシリテーション）とのつながりを学びます。
変性&極限意識状態のワーク3	変性意識状態の中でも扱いの難しいトラウマの扱いや依存症に焦点をあて、実践的な見立てと介入方法をケーススタディや自分自身のトラウマや依存症をワークすることを通して学びます。
メタスキル	あらゆるスキルは、それを使う人の「あり方」によって効果が全く違ってきます。プロセスワークではスキルを使う人の感情・気持ちや人生に向き合う態度から発するものを「メタスキル」と呼びますが、参加者各自のメタスキルを自覚し、伸ばしていきます。

## E. レベルフリー

### ・概要

初めての方から上級者の方まで、幅広く対象とするセミナーやイベントです。トレーニングの基礎とは少し違うさまざまなトピック、たとえば創造性や遊びを重視したものや、国際的に評価の高い海外の認定プロセスワーカーを招いてのセミナーなどもこれにあたります。

目標も学習内容も、主催者や講師によってさまざまです。

### 5) レベル別セミナーの使い方

各レベルのセミナーの内容は、それ以前のレベルの学習を前提としています。入門→レベル1→レベル2の順に参加できれば、無理なく理解を深めて頂けるでしょう。また、同じレベルでも講師によって、あるいはその時によって、展開される内容が変わってきます。同じレベルのセミナーに繰り返し参加することも、知識を広げ実践力を深めるにはたいへんよい方法です。しかし逆に、日程などの都合で先に上級レベルに出て、基礎の必要を実感してから戻ることも可能です。上級レベルの十分な理解が得られない可能性もあり、おすすめはできませんが、基礎レベルにおいて何を理解しておくべきかを明確に知った上で基礎レベルに参加できれば、一段と深い学びとなることでしょう。参加にあたってご自分の知識や経験が十分かどうかよくわからない場合は、各講師にご相談ください。

例外は、レベル3のセミナーです。

まずプロセスワーク研究会主催のセミナーでは、プロセスワークにかぎらず、精神医学や臨床心理学などの知見を含めて幅広い理論や実際のケースなどから学びます。プロセスワークについての学習がどのレベルにあっても、そこから学べることは多く豊かで、どなたでも参加できます。そしてスーパービジョンセミナーも、どなたでも参加できます。初心者から上級者までが一堂に会し、お互いにワークしあい学びあう「道場」のイメージで行われるため、学習のどの段階にあってもそれぞれに合った学びが得られます。上級者の方は、自分がワークを進める上で迷ったり

つまづいたりしがちな点について、まさにそれが起きる「今ここ」でのピンポイントなフィードバックが得られ、学習が大きく進みます。また初心者の方は、自分がセラピスト役としてワークしない場合でも、先輩のワークにまさにその場で立ち会うだけでも大きな体験となります。お互いにクライアント役になったり、オブザーバー役になったりして他の人のワークも数多く体験し、いわばおたがいの胸を借りて稽古をすることにより、自らの長所や成長すべき点についての自覚や実践的スキル、またメタスキルが育まれます。

ただし、各応用領域のレベル3の場合（例：関係性のワークや変性&極限意識状態のワークのレベル3）は、レベル2までの積み上げをもとに高度な内容を実践していくことが求められます。そのため、前のレベルに参加していない場合は参加できないことがあります。前のレベルに参加していない段階で受講をご希望の場合は、必ず講師にお問い合わせください。

もちろん事前の学習を問わないセミナーの場合も、参加前にプロセスワークの基礎理論やスキルを学習しておけばおほくほど理解が豊かに深まります。いわばレベル3は、参加者各自のレベルに合った学習がおのずから起こり深まる場といえるでしょう。また、レベル3に参加することでさらに基礎を学ぶ必要を痛感することもあります。レベル2までの学習とレベル3の学習を往復することで学べることも大きいことでしょう。

なお、レベルフリーのセミナーは、トレーニングに必須の学習内容から少し離れて、認定プロセスワーカーがそれぞれ自由に企画するセミナーです。各レベルでカバーすべき学習内容（詳細は下記）にとらわれず、一般に開かれた内容であるため、事前の学習は問われません。

## 6) セミナー修了証の発行

日本プロセスワークセンター主催セミナーでは、すべてのセミナーで、そのセミナーに出席されたことを証明する修了証を発行します。参加後 1 年以内に日本プロセスワークセンターのトレーニングプログラムに入学された場合は、そのセミナーをプログラムの単位としてカウントすることができます。いきなりプログラムに入学するのではなく、まずはいくつかのセミナーでプロセスワークを味見してみて、ほんとうに「これを深く学びたい」と確信されてから入学されても遅くありません。

セミナー修了証は、日本プロセスワークセンター主催セミナーの場合、終了時に日本プロセスワークセンター事務局から発行します。他の主催者が行う認定プロセスワーカーのセミナーに対しても、プログラムの単位に数えたい場合は修了証を発行することができます。その場合は、修了証を必要とされる方が各自で日本プロセスワークセンター事務局に申請してください。申請の際には、申請者の参加を証明する文書（講師の認定プロセスワーカーのサイン入り文書、または講師から直接事務局に送られる参加証明の E メールなど）とともに日本プロセスワークセンター事務局にお送りください。

## 巻末資料Ⅱ

### 日本プロセスワークセンタースタッフ一覧

(2011年3月現在。項目内50音順。近日改定予定)

- ファカルティ
  - コアファカルティ
    - 桑原香苗 トレーニングディレクター (面接室カフェ香庵)
    - 富士見ユキオ (富士見心理面接室)
    - 横山十祉子 事務局長 (TY-Practice)
  - ファカルティ
    - 坂元仁美 (Inner Awareness)
  - 準ファカルティ
    - 田所真生子
    - 平井みどり
  - 学生担当
    - 桑原香苗
    - 坂本仁美
- 特別アドバイザー
  - 岸原千雅子 (こころとからだの相談室アルケミア)
- 理事
  - 青木聡 (大正大学准教授)
  - 詠孝 (心理・教育相談室 TAKA)
  - 諸富祥彦 (明治大学教授)
- 倫理委員会
  - 外部委員
    - 濱野清志 (京都文教大学教授)
    - 村川治彦 (関西大学准教授)
  - 内部委員
    - 横山十祉子
- 事務局
  - 東條温子

巻末資料Ⅲ

日本プロセスワークセンター

臨床基礎プログラム用紙集

1. 学習計画書
2. アドバイザーミーティング実施報告書
3. 修了承認書
4. 休学届
5. 休学承認書
6. 復学届
7. 復学承認書
8. 退学届
9. 退学承認書
10. 変更届

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

学 習 計 画 書

学生氏名： \_\_\_\_\_ アドバイザー氏名： \_\_\_\_\_

作成年月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 プログラム修了目標日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

学習目標とその成果：プロセスワークに関する何を学習／研究するか？

学習のための手段：上記のテーマ（分野）をどのように学習／研究するか？

学習過程で、何を、どのように、アドバイザーとともに査定するか？

今後の年間アドバイザーミーティング予定：

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム  
アドバイザーミーティング実施報告書

学生氏名： \_\_\_\_\_ アドバイザー氏名： \_\_\_\_\_

アドバイザーミーティング実施年月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

話し合った内容：

- 学習の進行状況：これまでに達成したこと、感じた課題など
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 今後の学習計画、方向性：今後達成したいこと、その具体的方法など
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 次回のミーティングまでに行うこと
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 次回のミーティングにおいて行うこと
  - 次回ミーティングの日程： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- その他

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

修 了 承 認 書

臨床基礎プログラム学生 \_\_\_\_\_ さんのプログラム修了を承認

いたします。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

アドバイザー

\_\_\_\_\_

(署名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

休 学 届

私、臨床基礎プログラム学生\_\_\_\_\_は、\_\_\_\_\_年度について

(複数年度にわたる場合：\_\_\_\_\_年度から\_\_\_\_\_年度まで)、臨床基礎プ

ログラムを休学いたします。

アドバイザーの承認につきましては、アドバイザーからの休学承認書を別に添えますので、ご確

認ください。

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

\_\_\_\_\_  
(署 名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

休 学 承 認 書

臨床基礎プログラム学生 \_\_\_\_\_ さんの \_\_\_\_\_ 年度

(複数年度にわたる場合: \_\_\_\_\_ 年度から \_\_\_\_\_ 年度まで) の臨床基礎プ

ログラム休学を承認いたします。

\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

アドバイザー

\_\_\_\_\_

(署名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

復 学 届

私、臨床基礎プログラム学生\_\_\_\_\_は、\_\_\_\_\_年度より

休学期間を終了し、臨床基礎プログラムに復学いたします。

アドバイザーからの承認につきましては、アドバイザーの署名を得た復学承認書を別に添えます

ので、ご確認ください。

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

\_\_\_\_\_  
(署 名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

復学承認書

臨床基礎プログラム学生 \_\_\_\_\_さんが \_\_\_\_\_年度

より休学期間を終了し、臨床基礎プログラムに復学することを承認いたします。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

アドバイザー

\_\_\_\_\_

(署名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

退 学 届

私、臨床基礎プログラム学生\_\_\_\_\_は、\_\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

をもって臨床基礎プログラムを退学いたします。

アドバイザーからの承認につきましては、アドバイザー\_\_\_\_\_からの退学承

認書を別に添えますので、ご確認ください。

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

\_\_\_\_\_  
(署 名)

日本プロセスワークセンター臨床基礎プログラム

退 学 承 認 書

臨床基礎プログラム学生 \_\_\_\_\_ さんの臨床基礎プログラム退学を承認

いたします。

\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

アドバイザー

\_\_\_\_\_

(署名)

日本プロセスワークセンター  
臨床基礎プログラム

変 更 届

ふりがな：

学生氏名： \_\_\_\_\_

提出日： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

\*下記の項目に変更があった際は、当該項目に○をつけ、変更後の情報を事務局までお知らせください。

- 氏名
- 住所
- 電話番号（自宅、携帯、Fax）
- Eメールアドレス
- アドバイザー氏名
- 休学期間
- その他

変更前 \_\_\_\_\_

変更後 \_\_\_\_\_

プロセスワーク臨床基礎プログラム  
コースハンドブック  
2011年度-4月版

編集・発行：日本プロセスワークセンター事務局

〒156-0041

東京都世田谷区大原 1-3-11

Email: [info@jpsc.jp](mailto:info@jpsc.jp)

電話/FAX : 03-3485-4208

Website: <http://www.jpsc.jp>

発行日：2011年4月1日